

乳児保育の3つの視点と3歳未満児の5領域のねらい及び内容を反映した 保育に関する研究

研究代表者	碓氷	ゆかり	(聖和短期大学教授)
	清水	益治	(帝塚山大学教授)
共同研究者	千葉	武夫	(聖和短期大学教授)
	森	俊之	(仁愛大学教授)
	西村	重稀	(仁愛大学名誉教授)
	成田	朋子	(名古屋柳城短期大学名誉教授)
	水上	彰子	(富山福祉短期大学非常勤講師)
	青井	夕貴	(仁愛大学准教授)
	吉岡	真知子	(東大阪大学教授)
	波田埜	英治	(聖和短期大学准教授)
	中島	—	(天野山保育園園長)

研究の概要

本研究の目的は、保育所などに勤務する保育者が「乳児保育」「3歳未満児の保育」の内容を充実したものにするために実施している取り組みの状況や今後の方向性について明らかにすることであった。全国の保育所・幼保連携型認定こども園の約20分の1にアンケート（調査票）を送付し、400の園から回収した（回収率は31.3%）。また、福岡県小倉市の保育所で、「乳児保育・3歳未満児の保育の内容を充実させるために実施している取り組みの状況」についてヒアリングを実施した。得られた主な結果は以下のとおりであった。

(1) アンケート調査

指針等改定(訂)後に園内・園外で受けた研修は、0・1・2歳児クラスの担当者とも、園外よりも園内での研修が多い傾向にあった。しかし個人による差が大きく、全く受講していない者も半数近くいた。指針や教育・保育要領の内容の理解については、「十分理解できている」と「だいたい理解できている」を合わせた割合はいずれのクラスでも約7割であったが、「どちらともいえない」という回答がいずれのクラスでも約2割みられた。

指針等改定(訂)後、全体的な計画、年間指導計画、月間指導計画を変えた園の割合は約5割であった。長期・短期指導計画に告示で示されたねらい及び内容を含めるための検討については、いずれの年齢クラスでも「同年齢の担当者と」（4～5割）、「全員で」（1～2割）、あるいは「自身で」（1～2割）検討していた。全員分の個別的な指導計画は、すべての年齢クラスにおいて、ほぼ9割が作成されていた。

「乳児保育に関する3つの視点」および「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」の具体的な中身として10項目ずつを挙げ、それらの指導計画への反映状況や、実際の援助（環境構成を含む）の実施状況を尋ねたところ、0・1・2歳児クラスともに、「以前から指導計画に入っていた」「以前から実施していた」という回答が9割と多く、全般的には、大きく保育が変化したわけではなかった。一方、「新たに指導計画に加えた」「新たに実施するようになった」項目もいくつか見られ、指導計画や援助の見直しが行われていたことが窺えた。

(2) ヒアリング調査

あけぼの愛育保育園では、指針改定の際、園内研修や各年齢担当者での勉強会を行い、全職員が改定された指針を理解した上で保育が行えるよう取り組んでいた。今回の改定について、当園では、乳児保育を行う上で以前から大事に捉えていたことが指針に明文化されたこと、1歳以上3歳未満児の保育の5領域についても、子どもを見る視点の窓口として捉え、これまでの記録や保育帳票、保育の内容の見直しを行っていた。特に、

指導計画においては、職員間で何度も研修を行い、新たに示された乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児の保育の5領域の内容を反映させて作成していた。このことは、全職員が共通理解をして保育を行うことにつながっていると考えられた。

キーワード：乳児保育の3つの視点、3歳未満児の5領域、指導計画、保育内容、研修

I. 問題と目的

平成元年に「乳児保育の実施について」（厚生省児童家庭局長通知）や「乳児保育事業の実施について」（厚生省児童家庭局母子福祉課長通知）が通知された。以来、数多くの実践が行われ、またその実践を支える様々な研究も行われてきた。例えば、乳児保育の環境（阿部 2002・2003、田中ら 2005、村上 2010、鈴木 2011）や保育者の援助（小川 1998）、乳児と保育者の愛着関係（上田ら 2003、初塚 2010）、保育の質の向上（諏訪ら 1994、野澤ら 2017）のように、乳児の健やかな育ちに欠かせない環境や保育者の関わり等に関する研究が挙げられる。

平成10年の児童福祉法改正により、乳児保育の一般化が図られ、すべての保育所で乳児保育が実施できることとなってからは、「エンゼルプラン」（1994）、「新エンゼルプラン」（1999）、「子ども・子育て応援プラン」（2004）、「子ども・子育てビジョン」（2010）など社会全体で子育てを支援する政策が打ち出された。平成24年に「子ども・子育て支援法」が制定されてからは、保育所等の施設型保育だけでなく、「小規模保育」や「家庭的保育」などの地域型保育と保育の場が増え、乳児保育の量的な拡大が図られた。一方、保育所に通う子どもが増えるに従って、保育内容や質的な向上が求められるようになった。

平成29年に改定（訂）された保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、乳児保育や1歳以上3歳未満児の保育に関する「ねらいと内容」が告示として明記された。乳児保育においては、発達の諸側面が未分化であるため、「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」の3つの視点から保育内容が整理されている。身体的発達に関する視点である「健やかに伸び伸びと育つ」は1歳以上3歳未満児の5領域の「健康」へ、社会的発達に関する視点である「身近な人と気持ちが通じ合う」は「言葉」「人間関係」へ、精神的発達に関する視点である「身近なものに関わり感性が育つ」は「環境」「表現」へ、そして3歳以上児の5領域へとつなが

る連続性を意識して、保育の内容を総合的に実践していくことが求められている（図1）。

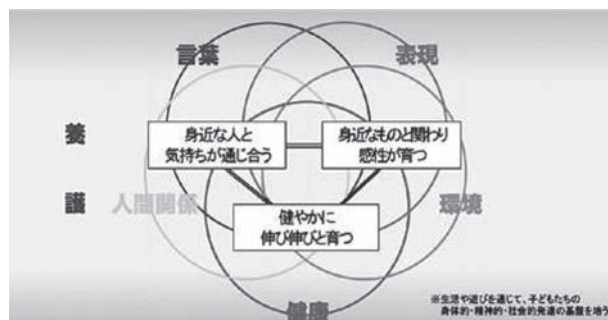


図1 0歳児の保育内容の記載のイメージ

（厚生労働省「保育所保育指針の改定に関する議論のとりまとめ」平成28年12月21日より）

また近年、社会を生き抜くために必要な力として、乳幼児期から非認知能力を育むことの大切さが注目されている（例えば、森口、2019）。この力を育むためには乳児期から人に対する基本的信頼感や自己肯定感を形成することが重要であるとされている。乳児期は保護者や保育士など特定の大人との間で愛着関係が形成され、その中で自我が形成されるなど、子どもの心身の発達にとって極めて重要な時期である。安定した愛着の形成は、子どもの人に対する基本的信頼感や自己肯定感を育み、その後の心の発達、人間関係に大きく影響する。安定した愛着形成のためには「特定の大人との応答的な関わり」が必要であり、今回の改定で示された3つの視点の中でも、「身近な人と気持ちが通じ合う」においては、「応答的」「受容的」という言葉が繰り返されているように、集団保育であっても1対1の関係を温かく丁寧につくることが発達支援の基本であることが示されている。乳幼児期の保育には、こうした愛着関係、基本的信頼感、自己肯定感の育ちを意識した展開が必要である。

このような点を踏まえて、本研究では、全国域での保育所・幼保連携型認定こども園を対象とした質問紙調査および先駆的な取り組みを行っている保育所を対象としたヒアリング調査を行った。本研究の目的は、①指針改定後の保育内容に関する見直しの方法や研修、②乳児保育の3つの視点と、1歳以上

3歳未満児の保育の5領域に基づく指導計画の作成およびそれに基づく指導体制、③乳児保育・3歳未満児の保育で新たに取り入れた保育内容・実践、④乳児保育・3歳未満児の保育の内容を充実させるための体制等について、現在の状況を明らかにし、保育所等の乳児保育・1歳以上3歳未満児の保育の内容を充実させるための基礎資料を提供することである。

Ⅱ. アンケート調査

1. 方法

1) 調査対象

全国の約20分の1である1,320箇所の保育所、認定こども園を選んで調査票を送付した。選定には、教育ソリューション株式会社のデータベースを用いた。41箇所からは郵便が不達で調査票が返送されてきたため、送付箇所数は1,279箇所であった。

2) 材料

「保育所保育指針の改定や幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂後に新たに取り入れた保育内容・実践等に関する調査研究」と題して質問紙による調査票を作成した。乳児と3歳未満児を分ける必要があったため、0歳児クラス担当者用（2ページ）、1歳児クラス担当者用（3ページ）、2歳児クラス担当者用（3ページ）の3種類作成した（1歳児クラス担当者用と2歳児クラス担当者用は共通の調査票）。

設問項目は以下のとおりである。

- ①園の属性（園の運営主体、園の種別、定員・在籍数、保育者数）
- ②平成29・30年度に園内・園外で受けた研修の回数
- ③現行の指針や教育・保育要領の内容の理解
- ④現行の指針や教育・保育要領になって、園の指導計画等を変えたか
- ⑤クラスの長期指導計画に乳児保育の3つの視点それぞれのねらい及び内容（1歳児クラス・2歳児クラスは、「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」）を含めるためにどのように検討したか
- ⑥クラスの短期指導計画に乳児保育の3つの視点それぞれのねらい及び内容（1歳児クラス・2歳児クラスは、「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」）を含めるためにどのように検討したか
- ⑦クラスでどの程度の個別的な指導計画を作成しているか

⑧乳児保育の3つの視点（1歳児クラス・2歳児クラスは、「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」）を意識して個別的な指導計画を作成しているか

⑨個別的な指導計画に乳児保育の3つの視点それぞれのねらい及び内容（1歳児クラス・2歳児クラスは、「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」）が含まれているかの確認方法

⑩乳児保育の3つの視点（1歳児クラス・2歳児クラスは、「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」）を意識した援助をしているか

⑪園でのカンファレンス開催の頻度

⑫指導計画に基づいた保育・教育の評価体制

⑬日々の引き継ぎの体制

⑭PDCAサイクルのC（評価）の体制

⑮乳児保育に関する3つの視点（「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」）についての指導計画の作成、援助の実施状況

⑯保育士等キャリアアップ研修受講の有無と受講した場合の講座の内容

⑰現行の指針や教育・保育要領改定（訂）後にクラスの保育で新たに取り入れた保育内容・実践

⑮の乳児保育に関する3つの視点については、保育者のための自己評価チェックリスト編纂委員会（2019）の3つの視点それぞれのチェック項目から10項目を抽出し、指導計画・援助の実施状況について尋ねた。また、1歳児クラス・2歳児クラス用の「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」も同様に、5領域それぞれのチェック項目から10項目を抽出し、指導計画・援助の実施状況について尋ねた。

調査票の他に、園長宛の依頼文書と返信用封筒を同封した。依頼文書には、研究の趣旨、回答に際しての守秘義務など倫理的配慮について明記した。園長には、0・1・2歳児クラスのそれぞれの担当者に回答を依頼した。

3) 手続き

2019年8月28日に調査票等一式を郵送し、返信封筒にて回答を返送するよう依頼した。10月5日までに400園分（保育所300：認定こども園100、公立129：私立271）が返送された（回収率31.3%）。の中には、全く無記入、あるいは園の所在地域のみを記入した調査票が含まれていた。そこでこれらを除外し、0歳児クラス用では364人分、1歳児クラス用では394人分、2歳児クラス用では395人分を分析対象とした。

2. 結果と考察

1) 園の運営主体・種類

表1は、園の運営主体を示したものである。公営が約3割、民営（社会福祉法人、学校法人、企業）が約7割であった。「その他」の運営主体は、宗教法人、公益財団法人、個人立、NPO法人、運営委員会であった。

園の種類を示したものが表2である。保育所が多く、次いで幼保連携型認定こども園が多かった。

表1 園の運営主体

	0歳児クラス(364)		1歳児クラス(394)		2歳児クラス(395)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
市区町村	102	28.0	125	31.7	128	32.4
社会福祉法人	222	61.0	226	57.4	225	57.0
学校法人	23	6.3	23	5.8	23	5.8
企業	8	2.2	9	2.3	7	1.8
その他	6	1.6	7	1.8	8	2.0
無回答	3	0.8	4	1.0	4	1.0

表2 園の種類

	0歳児クラス(364)		1歳児クラス(394)		2歳児クラス(395)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
保育所	270	74.2	293	74.4	296	74.9
幼保連携型認定こども園	67	18.4	76	19.3	65	16.5
認定こども園(保育所型)	21	5.8	20	5.1	25	6.3
認定こども園(幼稚園型)	2	0.5	2	0.5	4	1.0
認定こども園(地方裁量型)	1	0.3	1	0.3	2	0.5
無回答	3	0.8	2	0.5	3	0.8

2) 幼保連携型認定こども園になる前

園の種類が幼保連携型と回答した園に、幼保連携型認定こども園になる前について尋ねた結果が表3である。幼稚園と保育所の両方を選んだ者が0歳児と1歳児クラスではどちらも7人、2歳児クラスでは4人いた（中には「近隣の幼稚園と保育所が統合した」と書かれた回答もあった）。これらは「その他（無認可等）」に含めた。約7割が保育所、1割程度が幼稚園であった。

表3 幼保連携型認定こども園になる前

	0歳児クラス(67)		1歳児クラス(76)		2歳児クラス(65)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
保育所	47	70.1	52	68.4	43	66.2
幼稚園	8	11.9	11	14.5	8	12.3
新しく創設	2	3.0	4	5.3	3	4.6
その他(無認可等)	8	11.9	8	10.5	5	7.7
無回答	2	3.0	1	1.3	5	7.7

3) クラス定員、在籍数、保育者数

担当クラスの定員等を尋ねた。100人を超える定員等、園全体の値が示されているもの、混合クラスと明記されているもの、不明確な記述、「なし」と記述されているものは無回答として扱った。これらの理由で無回答とした人数は定員、在籍数、保育者数の順に0歳児が6、2、10ケース、1歳児が10、6、11ケース、2歳児が8、5、12ケースであった。

平均と標準偏差(SD)及びそれを算出した人数(N)を表4に示した。0歳児の定員が、1歳児と2歳児よりも少なかった。在籍数は定員以下であった。

表4 クラス定員、在籍数、保育者数

	0歳児クラス			1歳児クラス			2歳児クラス		
	N	平均	SD	N	平均	SD	N	平均	SD
定員	314	9.2	4.9	322	15.0	6.7	315	17.2	7.3
在籍数	356	6.9	4.3	381	14.2	6.4	383	16.7	7.4
保育者数	342	3.0	1.6	366	3.4	1.5	369	3.2	1.4

4) 研修の受講回数

「あなたは、現行の保育指針や教育・保育要領に基づいた乳児（1歳～3歳未満児）の保育に関する研修を受けましたか。」として、数値を書いてもらった。無記入の回答は0回とした。2.5などの小数点は切り捨て、1～4など範囲を書いた場合は一番低い値を採用した。「複数」回は2回とし、「約～回」は～の数値とした。「それぞれ」という回答があったが、個人差が大きいと想定されるので、最低値である0回として扱った。

平均と標準偏差(SD)を示したものが表5である。園内研修と園外研修を比べると、いずれの年度でも、すべての年齢クラスで園内研修の方がわずかに平均値が高かった。また、いずれの年度でも、すべての年齢クラスで、標準偏差(SD)が平均値よりも大きいという特徴がみられた。そこで、29年度の0歳児の園内研修について、実際の度数分布を調べてみた。その結果が表6である。

表5 乳児保育に関する研修受講

		0歳児クラス(364)		1歳児クラス(394)		2歳児クラス(395)	
		平均	SD	平均	SD	平均	SD
29年度	園内研修	0.9	2.1	0.9	1.7	0.9	2.2
	園外研修	0.8	1.3	0.8	1.4	0.7	1.0
30年度	園内研修	1.2	2.3	1.0	1.8	1.0	2.3
	園外研修	1.0	1.4	1.0	1.5	1.0	1.3

研修回数0回が58.5%と6割に近かった。同様の分析を29年度の園外研修に行ったら、0回が50%以上であった。半数の者は全く研修を受けずに保育にあたっていたことになる。2年間通算して、園内、園外研修のいずれも一度も受けていなかった者の割合は19.0%であった。2年間で1回だけ、園内または園外研修を受けた者は、35.7%であった。

表6 度数分布

回数	度数	割合(%)
0	213	58.5
1	93	25.5
2	25	6.9
3	15	4.1
4	4	1.1
5	6	1.6
6	2	0.5
10	1	0.3
11	1	0.3
12	2	0.5
15	1	0.3
25	1	0.3

5) 指針や教育・保育要領の内容についての理解度

「あなたは、現行の指針や教育・保育要領の内容について理解できていますか。」として5段階で評定を求めた。その結果が表7である。「十分理解できている」はほとんどいなかった。「どちらともいえない」が2割もいた。

表7 指針や教育・保育要領の内容の理解度

	0歳児クラス(364)		1歳児クラス(394)		2歳児クラス(395)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
a. 十分理解できている	20	5.5	14	3.6	13	3.3
b. だいたい理解できている	232	63.7	264	67.0	267	67.6
c. どちらともいえない	82	22.5	87	22.1	85	21.5
d. あまり理解できていない	13	3.6	17	4.3	10	2.5
e. 理解できていない	1	0.3	1	0.3	3	0.8
複数回答	0	0.0	0	0.0	1	0.3
無回答	16	4.4	11	2.8	16	4.1

6) 指針や教育・保育要領の改定(訂)に伴う指導計画の変化

「現行の指針や教育・保育要領になって貴園の指導計画等は変えましたか。変えたところがあれば、あてはまる項目すべてに○をつけて下さい」と求めた。○がつけられた割合を示したものが表8である。

全体的な計画、年間指導計画、月間指導計画は半数以上で変えられていた。しかし逆に考えるなら、4割以上の園では、指針や教育・保育要領で「ねらい」や「内容」「内容の取扱い」が明記されたにもかかわらず、変えなかったということである。

週案、日案になるにつれ変えた割合は20%台、10%台と数値は低下した。

表8 改定(訂)に伴う指導計画の変化

	0歳児クラス(364)		1歳児クラス(394)		2歳児クラス(395)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
a. 全体的な計画	190	52.2	223	56.6	232	58.7
b. 年間指導計画	205	56.3	210	53.3	214	54.2
c. 月間指導計画	192	52.7	214	54.3	209	52.9
d. 週案	88	24.2	113	28.7	108	27.3
e. 日案	47	12.9	58	14.7	54	13.7

7) 長期指導計画(年・期・月)に告示のねらい及び内容を含めるためにどのように検討したか

「クラスの長期指導計画(年・期・月)に乳児保育の3つの視点それぞれのねらい及び内容(「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」)を含めるために、どのように検討しましたか。」として、6つの選択肢を示した。各選択肢が選ばれた割合が表9である。複数回答した保育者が0歳児48人、1歳児55人、2歳児43人とかなりいた。前の設問が「あてはまる項目すべてに○をつけて下さい」としていたからかもしれない。

いずれの年齢クラスでも「同年齢の担当者と～」が約4割、「全職員で検討した」が約2割であった。

表9 長期指導計画をどのように検討したか

	0歳児クラス(364)		1歳児クラス(394)		2歳児クラス(395)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
a. 全職員で検討した	80	22.0	85	21.6	89	22.5
b. 同じ年齢の担当者と～	138	37.9	164	41.6	165	41.8
c. 自身で～	36	9.9	37	9.4	50	12.7
d. 検討していない	14	3.8	18	4.6	10	2.5
e. 1つ上の年齢の担当者と～	6	1.6	2	0.5	2	0.5
f. その他	32	8.8	27	6.9	28	7.1
複数回答	48	13.2	55	14.0	43	10.9
無回答	10	2.7	6	1.5	8	2.0

「その他」に具体的に記入する欄を設けておいたところ、園長、主任、リーダー、正職員、チーフ、検討委員などが挙げられていた。

複数回答について0歳児クラスではa b (14人)、1歳児クラスではb c (15人)とa b (13人)、2歳児クラスではa b (12人)とb f (10人)の組み合わせを選んだ者が10人以上であった。

8) クラスの短期指導計画(週・日)に告示のねらい及び内容を含めるためにどのように検討したか

「クラスの短期指導計画(週・日)に乳児保育の3つの視点それぞれのねらい及び内容(「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」)を含めるために、どのように検討しましたか。」として、6つの選択肢を示した。各選択肢が選ばれた割合が表10である。複数回答した保育者が0歳児34人、1歳児33人、2歳児35人とかなりいたが、表9よりは少ない人数であった。

表10 短期指導計画をどのように検討したか

	0歳児クラス(364)		1歳児クラス(394)		2歳児クラス(395)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
a. 全職員で検討した	43	11.8	52	13.2	45	11.4
b. 同じ年齢の担当者と～	172	47.3	185	47.0	190	48.1
c. 自身で～	56	15.4	71	18.0	71	18.0
d. 検討していない	27	7.4	19	4.8	28	7.1
e. 1つ上の年齢の担当者と～	6	1.6	2	0.5	1	0.3
f. その他	13	3.6	19	4.8	16	4.1
複数回答	34	9.3	33	8.4	35	8.9
無回答	13	3.6	13	3.3	9	2.3

いずれの年齢クラスでも「同年齢の担当者と～」が最も多く5割近くになっていた。次に「自身で～」が多かった。表9に比べて「全職員で～」が少なく、「同じ年齢の担当者と」「自身で～」が多かった。計画の特性から領けよう。

「その他」には、園長、主任、正職員、0・1・2歳児担当者などが挙げられていたが、「週案、日案は作成していない」との記述も複数あった。

複数回答についてはいずれの年齢クラスでもb cの組み合わせを選んだ者が最も多かった(0歳、1歳、2歳の順に7人、11人、9人)。

9) 個別的な指導計画の作成の程度

「あなたのクラスではどの程度の個別的な指導計

画を作成していますか。」として、4つの選択肢（a. クラスの指導計画とは別に一人ずつ個別に指導計画を作成している。b. クラスの指導計画の中に個人の欄（全員分）を設けて作成している。c. クラスの指導計画の中に個人の欄（一部の子ども）を設けて作成している。d. 個別的な指導計画は作成していない）を提示した。表11は各選択肢を選んだ人数とその割合を示したものである。

表11 個別的な指導計画の作成の程度

	0歳児クラス(364)		1歳児クラス(394)		2歳児クラス(395)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
a. 別に1人ずつ	233	64.0	263	66.8	263	66.6
b. 中に全個人欄	100	27.5	93	23.6	74	18.7
c. 中に一部個人欄	10	2.7	10	2.5	23	5.8
d. 作成していない	11	3.0	19	4.8	30	7.6
複数回答	2	0.5	5	1.3	2	0.5
無回答	8	2.2	4	1.0	3	0.8

「クラスの指導計画とは別に一人ずつ個別計画を作成している」が0歳児64.0%、1歳児66.8%、2歳児66.6%と多く、「指導計画の中に全員分の個人の欄を設けて作成している」が同じ順に27.5%、23.6%、18.7%となっていた。この2つを合わせると、いずれの年齢においても、ほぼ90%が全員分の個別の指導計画が作成されていた。

10) 個別的な指導計画に告示のねらい及び内容が含まれているかをどのように確認したか

「個別的な指導計画に乳児保育の3つの視点のそれぞれのねらい及び内容（「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」）が含まれているか、どのように確認しましたか。」として、6つの選択肢を示した。各選択肢を選んだ人数とその割合を示したものが表12である。

「同じ年齢の担当者と確認した」が最も多く、0歳児クラスが41.5%、1歳児クラスが43.7%、2歳児クラスが41.8%と、4割以上であった。次いで、「自身で確認した」が同じ順に21.7%、22.1%、24.3%と、2割強であった。「その他」では、園長、主任に確認してもらっているというのがあった。複数回答は、0歳児クラスと1歳児クラスではb c（順に8人と9人）、2歳児クラスではb e（6人）が多かった。

表12 個別的な指導計画に告示のねらい及び内容が含まれているかの確認

	0歳児クラス(364)		1歳児クラス(394)		2歳児クラス(395)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
a. 全職員で会議を開いて～	41	11.3	47	11.9	50	12.7
b. 同じ年齢の担当者と～	151	41.5	172	43.7	165	41.8
c. 自身で～	79	21.7	87	22.1	96	24.3
d. 確認していない	31	8.5	36	9.1	35	8.9
e. その他	18	4.9	18	4.6	14	3.5
複数回答	29	8.0	23	5.8	23	5.8
無回答	15	4.1	11	2.8	12	3.0

「～」は「確認した」

11) 乳児保育の3つの視点／「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」を意識した援助

「あなたのクラスでは乳児保育の3つの視点（「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」）を意識した援助をしていますか。」として、5つの選択肢を示した。各選択肢を選んだ人数とその割合を示したものが表13である。

表13 乳児保育の3つの視点／「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」を意識した援助

	0歳児クラス(364)		1歳児クラス(394)		2歳児クラス(395)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
a. している	128	35.2	149	37.8	127	32.2
b. だいたいしている	199	54.7	193	49.0	217	54.9
c. どちらともいえない	28	7.7	43	10.9	39	9.9
d. あまりしていない	3	0.8	3	0.8	4	1.0
e. していない	0	0.0	0	0.0	2	0.5
複数回答	0	0.0	0	0.0	1	0.3
無回答	6	1.6	6	1.5	5	1.3

「だいたいしている」が最も多く、0歳児クラスが54.7%、1歳児クラスが49.0%、2歳児クラスが54.9%であった。「している」が0歳児クラスは35.2%、1歳児クラスは37.8%、2歳児クラスは32.2%であり、2つを合わせると、0歳児クラスでは約90%、1・2歳児クラスでは80%以上が意識した援助がなされていた。

12) カンファレンスの実施状況

「あなたの園では、カンファレンス（会議・協議）をどの程度開いていますか。」として、3つの選択肢を示した。各選択肢を選んだ人数とその割合を示したものが表14である。

すべてのクラスにおいて「定期的に行っている」が最も多く、「必要に応じて開いている」を含めると、9割を超えていた。「その他」としては、「定期的な会議に加え、必要に応じて臨時会議も行っている」「小学校との個別支援会議」「ヒヤリハット会議」などが挙げられていた。

表14 カンファレンスの実施状況

	0歳児クラス(364)		1歳児クラス(394)		2歳児クラス(395)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
a. 定期的に行っている	286	78.6	313	79.4	312	79.0
b. 必要に応じて開いている	59	16.2	57	14.5	66	16.7
c. 開いていない	5	1.4	2	0.5	2	0.5
d. その他	2	0.5	2	0.5	2	0.5
複数回答	9	2.5	18	4.6	13	3.3
無回答	3	0.8	2	0.5	0	0.0

13) 指導計画の評価体制

「あなたのクラスでは、指導計画に基づき保育・教育を実施する際、評価をどのような体制で行っていますか。あてはまる項目すべてに○をつけて下さい」として、6つの選択肢を示した。各選択肢を選んだ人数とその割合を示したものが表15である。

各クラスの傾向は類似しており、「園長が評価を行っている」と「主任が評価を行っている」がどちらも約5割、「クラス全員で評価を行っている」が約4割であった。「その他」としては、「自分自身で」「園全体・全職員で」「常勤職員で」などが主に挙げられていた。

表15 指導計画の評価体制

	0歳児クラス(364)		1歳児クラス(394)		2歳児クラス(395)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
a. 園長が～	190	52.2	206	52.3	196	49.6
b. 主任が～	182	50.0	191	48.5	194	49.1
c. クラスリーダーが～	84	23.1	78	19.8	75	19.0
d. クラス全員で～	152	41.8	181	45.9	177	44.8
e. 体制は整っていない	16	4.4	18	4.6	18	4.6
f. その他	14	3.8	27	6.9	19	4.8

「～」は「評価を行っている」

14) 日々の引き継ぎ体制

「あなたの園では、日々の引き継ぎの体制をどのように設けていますか。」として、6つの選択肢を示した。各選択肢を選んだ人数とその割合を示したものが表16である。

設問の設定では、複数回答と明記していなかったが、複수에○をつけた者が0歳児クラスで159人、1歳児クラスで195人、2歳児クラスで184人いた。そのため、複数回答可として分析した。なお、すべての項目に○をつけなかった者は、0歳児クラスで4人、1歳児クラスでは2人、2歳児クラスでは3人いた。これらは分母からは省かなかった。

各クラスの傾向としては類似しており、「他の職員に伝言している」が最も多かったが、1歳児クラスが66.0%で最も多かった。次いで、すべてのクラスで「引き継ぎ用のノートで連絡している」が5割を超えており、「時間を設けて引き継いでいる」が3割を超えていた。

「その他」としては、「ホワイトボード、伝言表、確認表などの使用」「朝礼時で確認」「口頭でも文書でも」「LINEのアプリの使用」などが挙げられていた。

表16 日々の引き継ぎ体制

	0歳児クラス(364)		1歳児クラス(394)		2歳児クラス(395)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
a. 時間を設けて引き継いでいる	124	34.1	138	35.0	138	34.9
b. 他の職員に伝言している	215	59.1	260	66.0	254	64.3
c. 引き継ぎ用のノートで連絡している	196	53.8	220	55.8	208	52.7
d. ICTを活用している	12	3.3	9	2.3	9	2.3
e. 特にしていない	1	0.3	4	1.0	4	1.0
f. その他	16	4.4	16	4.1	14	3.5

15) PDCAサイクルの評価体制

「あなたの園では、PDCAサイクルのC（評価）をどのような体制で行っていますか。」として、6つの選択肢を示した。各選択肢を選んだ人数とその割合を示したものが表17である。

各クラスの傾向は類似しており、「同じ年齢の担当者で評価を行っている」が3割を超え、最も多かった。次いで、「全職員で評価を行っている」が2割を超えていた。また、どのクラスにおいても「体制は整っていない」が1割を超える結果となった。「その他」としては、「園長、主任・主幹」「自己評価」が含まれている回答が多かった。

本設問においても、複数回答と明記していなかったが、0歳児クラスでは37人、1歳児クラスでは47人、2歳児クラスでは51人の複数回答があった。内訳を調べたところ、いずれのクラスでもa bの選択が多く、0歳児クラスでは20人、1歳児クラスでは21人、2歳児クラスでは24人がこの2つを選んでいた。

表17 PDCAサイクルの評価体制

	0歳児クラス(364)		1歳児クラス(394)		2歳児クラス(395)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
a. 全職員で～	94	25.8	104	26.4	99	25.1
b. 同じ年齢の担当者が～	120	33.0	134	34.0	127	32.2
c. 他の年齢の担当者が～	1	0.3	4	1.0	2	0.5
d. 外部の評価者が行っている	4	1.1	5	1.3	3	0.8
e. 体制は整っていない	55	15.1	54	13.7	59	14.9
f. その他	23	6.3	28	7.1	25	6.3
複数選択	37	10.2	47	11.9	51	12.9
無回答	30	8.2	18	4.6	29	7.3

「～」は「評価を行っている」

16) 具体的な保育内容の変化

現行（改定後）の保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、乳児保育のねらいと内容が「乳児保育に関する3つの視点」に沿ってまとめられ、1歳以上3歳未満児の保育については、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域でまとめられた。そこで、0歳児クラスの担当者には乳児保育に関する3つの視点毎に、1歳児と2歳児クラスの担当者には5領域毎に、具体的な項目として10項目ずつを挙げ、それらの指導計画への反映状況や、実際の援助（環境構成を含む）の実施状況を尋ねた。指針等の改定（訂）に伴う変化を分析するために、回答形式としては、指導計画への反映状況については、各項目が「以前から指導計画に入っていた」のか、「新たに指導計画に加えた」のか、「指導計画に記載していない」のかの3択から選択してもらった。同様に、実際の援助の実施状況については、各項目を「以前から実施していた」のか、「新たに実施するようになった」のか、「実施していない」のかの3択から選択してもらった。

① 0歳児の保育内容の変化

0歳児クラス担当者が項目毎にそれぞれの選択肢を選んだ回答者数と回答率を求め、表に示した。身体的発達に関する視点の項目については表18に、社会的発達に関する視点の項目については表19に、精神的発達に関する視点の項目については表20にそれぞれ示した。

まず全般的に、いずれの項目も、指導計画への反映状況としては「以前から指導計画に入っていた」という回答が多く、また具体的な援助状況としても「以前から実施していた」という回答が多かった。ほぼすべての項目において、9割を超える園が「以前から・・・」という回答であり、「以前から・・・」という回答が最も低い項目でも回答率が85%を超えていた。それゆえ、基本的に多くの園では、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改定(訂)後に、大きく保育が変化したわけではないことが示唆される。

全般的には大きな変化がみられなかったが、その中でも「以前から・・・」という回答が比較的低かった項目について検討する。まず、「以前から指導

計画に入っていた」という回答率が95%を下回っている項目（表中グレーの網掛けで表示）を数えてみると、身体的発達に関する視点の項目は4項目、社会的発達に関する視点の項目は3項目、精神的発達に関する視点の項目は8項目であり、精神的発達に関する視点の項目でとくに多いことが示された。実際の援助状況については指導計画への反映状況ほどではなかったが、身体的発達に関する視点の項目が4項目、社会的発達に関する視点の項目が2項目、精神的発達に関する視点の項目が5項目と、やはり精神的発達に関する視点の項目でやや多かった。それゆえ、従来の保育所保育指針等のもとでは、保育内容・実践において精神的発達に関する視点（身近なものに関わり感性が育つ）が比較的弱かったといえるかもしれない。

これらの「以前から・・・」という回答が低い項目は、以前はしていなかったが「新たに・・・」というように保育内容・実践が変化したという場合と、以前もしていないし今もしていないという場合の2つに大きく分けられる。次に、この2つの場合について以下にみていく。

表18 身体的発達に関する視点における指導計画への反映状況と実際の援助の実施状況

	指導計画への反映状況			実際の援助の実施状況		
	以前から指導計画に入っていた	新たに指導計画に加えられた	指導計画に記載していない	以前から実施していた	新たに実施するようになった	実施していない
心と体の発達の促し	349 97.8%	8 2.2%	0 0.0%	330 98.2%	6 1.8%	0 0.0%
体を動かす機会の確保	348 97.2%	8 2.2%	2 0.6%	326 96.7%	10 3.0%	1 0.3%
自ら体を動かそうとする意欲の育成	334 93.3%	21 5.9%	3 0.8%	314 93.2%	22 6.5%	1 0.3%
生理的・心理的欲求の受け止め	349 97.8%	8 2.2%	0 0.0%	329 97.1%	10 2.9%	0 0.0%
一人一人の発育の応じた経験の助長	339 95.0%	13 3.6%	5 1.4%	319 94.4%	17 5.0%	2 0.6%
個人差に応じた授乳	324 91.8%	11 3.1%	18 5.1%	317 95.8%	9 2.7%	5 1.5%
ゆったりとした授乳	317 90.1%	15 4.3%	20 5.7%	311 94.5%	12 3.6%	6 1.8%
体調に対応した離乳食	317 89.0%	13 3.7%	26 7.3%	312 92.9%	13 3.9%	11 3.3%
生活リズムに応じた睡眠の環境	340 95.2%	10 2.8%	7 2.0%	326 96.2%	12 3.5%	1 0.3%
適切なおむつ交換	342 95.8%	7 2.0%	8 2.2%	333 98.5%	5 1.5%	0 0.0%

※網掛けは、「以前から・・・」の欄は95%未満のもの、「新たに・・・」と「・・・していない」の欄は5%以上のもの

表19 社会的発達に関する視点における指導計画への反映状況と実際の援助の実施状況

	指導計画への反映状況			実際の援助の実施状況		
	以前から指導計画に入っていた	新たに指導計画に加えられた	指導計画に記載していない	以前から実施していた	新たに実施するようになった	実施していない
一人一人とのスキンシップ	349 97.8%	7 2.0%	1 0.3%	331 98.8%	4 1.2%	0 0.0%
甘えなどの依存欲求の充足	342 95.8%	12 3.4%	3 0.8%	326 97.0%	10 3.0%	0 0.0%
人に触れられて心地よいと感じるような関わり	331 91.9%	16 4.4%	13 3.6%	316 94.3%	12 3.6%	7 2.1%
表情などからの気持ちの受け止め	344 97.2%	6 1.7%	4 1.1%	331 98.5%	5 1.5%	0 0.0%
発声、喃語などへのゆったりとやさしい応答	346 96.9%	9 2.5%	2 0.6%	327 97.3%	9 2.7%	0 0.0%
積極的な言葉のやりとり	343 96.3%	7 2.0%	6 1.7%	327 97.6%	8 2.4%	0 0.0%
一緒にいることを喜ぶような声かけ	331 92.7%	19 5.3%	7 2.0%	323 96.1%	12 3.6%	1 0.3%
一人一人へのやさしい対応	342 95.8%	9 2.5%	6 1.7%	331 98.5%	5 1.5%	0 0.0%
親しみの気持ちを表せる工夫	314 88.2%	23 6.5%	19 5.3%	309 92.0%	23 6.8%	4 1.2%
気持ちを理解した受け止め	348 97.5%	7 2.0%	2 0.6%	329 97.9%	7 2.1%	0 0.0%

※網掛けは、「以前から…」の欄は95%未満のもの、「新たに…」と「…していない」の欄は5%以上のもの

表20 精神的発達に関する視点における指導計画への反映状況と実際の援助の実施状況

	指導計画への反映状況			実際の援助の実施状況		
	以前から指導計画に入っていた	新たに指導計画に加えられた	指導計画に記載していない	以前から実施していた	新たに実施するようになった	実施していない
興味や関心をもてるような環境構成	340 95.0%	15 4.2%	3 0.8%	316 94.9%	13 3.9%	4 1.2%
音、形、色、手触りなどを考慮した玩具の用意	325 91.0%	23 6.4%	9 2.5%	307 91.4%	23 6.8%	6 1.8%
感覚の発達を促すような玩具の用意	325 91.0%	21 5.9%	11 3.1%	307 91.6%	24 7.2%	4 1.2%
探索意欲を満たす活動	335 94.1%	17 4.8%	4 1.1%	316 94.6%	17 5.1%	1 0.3%
表現しようとする意欲の受け止め	334 94.4%	16 4.5%	4 1.1%	319 95.5%	14 4.2%	1 0.3%
発達に即した絵本の用意	325 91.3%	15 4.2%	16 4.5%	316 94.6%	16 4.8%	2 0.6%
様々な色彩や形のものを見る機会	302 85.3%	29 8.2%	23 6.5%	289 86.5%	28 8.4%	17 5.1%
あやし遊び	332 93.0%	10 2.8%	15 4.2%	321 95.8%	8 2.4%	6 1.8%
リズムを伴った触れ合い遊び	338 94.9%	11 3.1%	7 2.0%	326 97.6%	8 2.4%	0 0.0%
身の回りのものの十分な安全点検	345 96.9%	8 2.2%	3 0.8%	327 97.9%	7 2.1%	0 0.0%

※網掛けは、「以前から…」の欄は95%未満のもの、「新たに…」と「…していない」の欄は5%以上のもの

まずは、指導計画への反映状況や援助の実施状況が比較的变化した項目である。ここでは「新たに・・・」という選択肢を選んだ率が5%以上のもの（表中グレーの網掛けで表示）について以下に記述した。

身体的発達に関する視点の中では、「自ら体を動かそうとする意欲の育成」という項目は、「新たに指導計画に加えた」という回答が比較的多く、また実際の援助としても「新たに実施するようになった」という回答も比較的多くみられた。

社会的発達に関する視点の中では、「親しみの気持ちを表せる工夫」という項目が、「新たに指導計画に加えた」という回答が比較的多く、実際の援助としても「新たに実施するようになった」という回答も見られた。「一緒にいることを喜ぶような声かけ」という項目は、実際の援助としては「以前から実施していた」という回答が多いが、指導計画としては「新たに指導計画に加えた」という回答が比較的多くみられた。

精神的発達に関する視点の中では、「様々な色彩や形のものを見る機会」や「音、形、色、手触りなどを考慮した玩具の用意」、「感覚の発達を促すような玩具の用意」の項目が、「新たに指導計画に加えた」という回答が比較的多く、また実際の援助としても「新たに実施するようになった」という回答も比較的多くみられた。

一方で、「指導計画に記載していない」とか具体的な援助を「実施していない」という回答が5%以上のもの（表中グレーの網掛けで表示）もいくつかみられた。身体的発達に関する視点の中では、「体調に対応した離乳食」や「ゆったりとした授乳」、「個人差に応じた授乳」など、授乳や離乳食に関する項目が、指導計画への反映状況として「指導計画に記載していない」という回答が比較的多くみられた。

社会的発達に関する視点の中では、「親しみの気持ちを表せる工夫」という項目が、「新たに指導計画に加えた」という回答も多かったが、同じように「指導計画に記載していない」という回答も多かった。

精神的発達に関する視点の中では、「様々な色彩や形のものを見る機会」という項目が、「指導計画に記載していない」という回答や実際の援助も「実施していない」という回答が比較的多くみられた。これらの項目などは、今後、より指導計画に反映して実際の援助につながるようにしていくように取り組むことが求められる。

② 1歳児の保育内容の変化

1歳児クラス担当者が項目毎にそれぞれの選択肢を選んだ回答者数と回答率を求め、表に示した。健康に関する項目については表21に、人間関係に関する項目については表22に、環境に関する項目については表23に、言葉に関する項目については表24に、表現に関する項目については表25に、それぞれ示した。

全般的には、いずれの項目も、指導計画への反映状況としては「以前から指導計画に入っていた」という回答が多く、また具体的な援助状況としても「以前から実施していた」という回答が多かった。それゆえ、1歳児クラスにおいても、多くの園では、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改定(訂)に伴って、大きく保育が変化したわけではないことが示唆される。ただ、項目によってはその回答率は異なり、100%に近い回答率の項目もあれば、回答率が7割程度にとどまる項目もみられた。

「以前から・・・」という回答が比較的低かった項目について検討する。まず、「以前から指導計画に入っていた」という回答率が95%を下回っている項目（表中グレーの網掛けで表示）を数えてみると、健康に関する項目は3項目（うち90%を下回っている項目はなし）、人間関係に関する項目は8項目（うち90%を下回っている項目は4項目）、環境に関する項目は8項目（うち90%を下回っている項目は6項目）、言葉に関する項目は4項目（うち90%を下回っている項目は2項目）、表現に関する項目は8項目（うち90%を下回っている項目は5項目）であった。同様に実際の援助状況についてみると、健康に関する項目は2項目（うち90%を下回っている項目はなし）、人間関係に関する項目は4項目（うち90%を下回っている項目は3項目）、環境に関する項目は8項目（うち90%を下回っている項目は5項目）、言葉に関する項目は2項目（うち90%を下回っている項目はなし）、表現に関する項目は8項目（うち90%を下回っている項目は2項目）であった。大まかにみると、健康や言葉に関する保育内容・実践は、従来から比較的に取り組まれており、環境、人間関係に関する保育内容・実践はやや弱かったといえるかもしれない。

次に、指導計画への反映状況や援助の実施状況が比較的变化した項目として、「新たに・・・」という選択肢を選んだ率が5%以上のもの（表中グレーの網掛けで表示）について以下に記述する。

健康に関する項目では「新たに指導計画に加え

た」という回答が多い項目はなく、「新たに実施するようになった」という回答が多い項目も「ゆったりとした排泄を促す環境」だけであった。

人間関係に関する項目では、「自らきまりの大切さに気付く援助」「他の年齢の子どもの存在を感じ楽しめるような援助」「不安な気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることの大切さに気付く援助」「様々な人がいることへの気付きを促す援助」などが、「新たに指導計画に加えた」や「新たに実施するようになった」という回答が、比較的多かった。

環境に関する項目では、「物の性質や仕組みに気付くことのできる環境構成」「地域の生活に対する興味や関心」などは、「新たに指導計画に加えた」や「新たに実施するようになった」という回答が、比較的多かった。

言葉に関する項目では、「新たに指導計画に加えた」という回答が多い項目はなく、「新たに実施するようになった」という回答が多い項目も「状況を説明する言葉などを補う援助」だけであった。

表現に関する項目では、「自分なりにイメージを広げて表現することができる援助」「様々な素材に触れる環境整備」「イメージや感性を豊かにする経

験ができるような工夫」「試行錯誤しながら様々な表現を楽しむための温かい見守り」「自分の力でやり遂げる充実感に気付くことができる援助」「発見や心が動く経験ができるような環境整備」など多くの項目で「新たに実施するようになった」という回答がみられ、そのうち「イメージや感性を豊かにする経験ができるような工夫」「試行錯誤しながら様々な表現を楽しむための温かい見守り」「発見や心が動く経験ができるような環境整備」は「新たに指導計画に加えた」という回答も比較的多かった。

「指導計画に記載していない」や具体的な援助を「実施していない」という回答が5%以上のものの（表中グレーの網掛けで表示）もいくつかみられた。健康に関する項目では、回答率が5%以上の項目はみられなかった。人間関係に関する項目では、「自らきまりの大切さに気付く援助」「他の年齢の子どもの存在を感じ楽しめるような援助」「不安な気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることの大切さに気付く援助」「様々な人がいることへの気付きを促す援助」が5%以上のものが指導計画に記載しておらず、うち「自らきまりの大切さに気付く援助」「様々な人がいることへの気付きを促す援助」は5%以上のものが具体的な援助もしていな

表21 1歳児の健康における指導計画への反映状況と実際の援助の実施状況

【1歳児・健康】	指導計画への反映状況			実際の援助の実施状況		
	指導計画に入っていた	以前から指導計画に加えられた	新たに指導計画に記載していない	実施していた	以前から実施していた	新たに実施するようになった
安定感をもって生活できるよう受容	384 98.2%	4 1.0%	3 0.8%	368 98.7%	4 1.1%	1 0.3%
生活リズムの形成	379 96.9%	7 1.8%	5 1.3%	367 98.1%	5 1.3%	2 0.5%
走る、跳ぶ、登る、押す、ひっぱるなど全身を使う遊び	365 93.8%	17 4.4%	7 1.8%	355 94.7%	18 4.8%	2 0.5%
清潔に保つ心地よさの習慣の獲得	377 96.4%	8 2.0%	6 1.5%	368 98.1%	7 1.9%	0 0.0%
ゆったりとした排泄を促す環境	354 90.5%	18 4.6%	19 4.9%	346 92.3%	19 5.1%	10 2.7%
身体を動かそうとする意欲の育成	372 95.1%	14 3.6%	5 1.3%	363 96.8%	12 3.2%	0 0.0%
食べる喜びや楽しさを味わえる雰囲気	381 97.9%	6 1.5%	2 0.5%	367 98.1%	6 1.6%	1 0.3%
個人差に応じて排泄に少しずつ慣れさせる対応	371 94.9%	10 2.6%	10 2.6%	359 95.7%	10 2.7%	6 1.6%
食事、排泄、睡眠、衣服の着脱、身の周りの清潔など、自分でしようとする気持ちの尊重	384 98.5%	4 1.0%	2 0.5%	370 98.7%	5 1.3%	0 0.0%
基本的な生活習慣の形成についての家庭との連携	374 95.7%	10 2.6%	7 1.8%	362 96.8%	11 2.9%	1 0.3%

※網掛けは、「以前から…」の欄は95%未満のもの、「新たに…」と「…していない」の欄は5%以上のもの

表22 1歳児の人間関係における指導計画への反映状況と実際の援助の実施状況

【1歳児・人間関係】	指導計画への反映状況			実際の援助の実施状況		
	導 計 画 に 入 っ て い た	以 前 か ら 指 導 計 画 に 入 ら れ た	新 た に 指 導 計 画 に 加 え ら れ た	施 し て い た	以 前 か ら 実 施 し て い た	新 た に 実 施 す る よ う に な っ た
人と共に過ごす心地よさを感じられるような、思いの受け入れ	366 93.8%	19 4.9%	5 1.3%	355 95.9%	15 4.1%	0 0.0%
他の子どもとの多様な関わり	364 93.6%	16 4.1%	9 2.3%	352 95.1%	14 3.8%	4 1.1%
自らきまりの大切さに気付く援助	317 81.3%	26 6.7%	47 12.1%	319 86.2%	31 8.4%	20 5.4%
他の年齢の子どもの存在を感じ楽しめるような援助	342 87.7%	23 5.9%	25 6.4%	339 92.1%	20 5.4%	9 2.4%
気持ちを尊重し、温かく愛情豊かで応答的な関わり	378 96.9%	6 1.5%	6 1.5%	361 97.8%	7 1.9%	1 0.3%
思い通りにいかないときなどの子どもの気持ちの受け止め	367 94.1%	12 3.1%	11 2.8%	357 96.7%	10 2.7%	2 0.5%
不安な気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることの大切さに気付く援助	330 84.8%	24 6.2%	35 9.0%	325 88.1%	29 7.9%	15 4.1%
様々な人がいることへの気付きを促す援助	317 81.5%	28 7.2%	44 11.3%	311 84.1%	32 8.6%	27 7.3%
自分の気持ちを相手に伝えることの大切さを知らせる関わり	373 95.6%	9 2.3%	8 2.1%	355 95.7%	11 3.0%	5 1.3%
相手の気持ちに気付くことの大切さを知らせる関わり	362 92.8%	14 3.6%	14 3.6%	347 93.5%	18 4.9%	6 1.6%

※網掛けは、「以前から…」の欄は95%未満のもの、「新たに…」と「…していない」の欄は5%以上のもの

表23 1歳児の環境における指導計画への反映状況と実際の援助の実施状況

【1歳児・環境】	指導計画への反映状況			実際の援助の実施状況		
	導 計 画 に 入 っ て い た	以 前 か ら 指 導 計 画 に 入 ら れ た	新 た に 指 導 計 画 に 加 え ら れ た	施 し て い た	以 前 か ら 実 施 し て い た	新 た に 実 施 す る よ う に な っ た
見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにし、探索活動を促す環境構成	372 96.1%	10 2.6%	5 1.3%	357 97.5%	9 2.5%	0 0.0%
玩具、絵本、遊具などを使った遊びを楽しむことのできる環境構成	383 98.5%	5 1.3%	1 0.3%	359 97.8%	7 1.9%	1 0.3%
物の性質や仕組みに気付くことのできる環境構成	279 72.3%	30 7.8%	77 19.9%	279 75.6%	36 9.8%	54 14.6%
自分の物と人の物の区別や場所的感覚など、環境を捉える感覚の育成	331 85.1%	19 4.9%	39 10.0%	329 89.4%	19 5.2%	20 5.4%
身近な生き物に気付き、親しみをもつことのできる環境構成	361 93.5%	9 2.3%	16 4.1%	344 94.2%	13 3.6%	8 2.2%
地域の生活に対する興味や関心	268 68.9%	29 7.5%	92 23.7%	268 72.6%	30 8.1%	71 19.2%
感覚の発達が促されるような、音質、形、色、大きさなど、子どもの発達に応じた適切な玩具の選定	346 88.7%	19 4.9%	25 6.4%	341 92.9%	20 5.4%	6 1.6%
発見を楽しんだり、考えたりすることができるような援助	354 91.2%	19 4.9%	15 3.9%	346 94.0%	17 4.6%	5 1.4%
生命の尊さに対する気付きを促す関わり	317 81.3%	16 4.1%	57 14.6%	322 86.6%	16 4.3%	34 9.1%
社会とのつながりや地域社会の文化に気付く関わり	272 70.1%	24 6.2%	92 23.7%	276 75.0%	28 7.6%	64 17.4%

※網掛けは、「以前から…」の欄は95%未満のもの、「新たに…」と「…していない」の欄は5%以上のもの

表24 1歳児の言葉における指導計画への反映状況と実際の援助の実施状況

【1歳児・言葉】	指導計画への反映状況			実際の援助の実施状況		
	指導計画に入っていた	以前から指導計画に入っていた	新たに指導計画に加えた	以前から実施していた	新たに実施するようになった	実施していない
自分で言葉を使おうとしたときのありのままの受け止め	362 96.5%	4 1.1%	9 2.4%	343 98.6%	4 1.1%	1 0.3%
生活に必要な言葉に対する気づきを促す関わり	360 96.5%	8 2.1%	5 1.3%	338 97.4%	9 2.6%	0 0.0%
心のこもった日常の挨拶	335 89.6%	13 3.5%	26 7.0%	329 94.5%	13 3.7%	6 1.7%
人の言葉や話を興味をもって聞く機会の提供	344 92.5%	11 3.0%	17 4.6%	331 95.4%	11 3.2%	5 1.4%
言葉のやりとりを楽しめるような関わり	369 98.7%	4 1.1%	1 0.3%	344 99.1%	3 0.9%	0 0.0%
状況を説明する言葉などを補う援助	319 85.3%	18 4.8%	37 9.9%	315 90.3%	19 5.4%	15 4.3%
思いを察し、共感した受け止め	366 97.9%	5 1.3%	3 0.8%	343 98.3%	6 1.7%	0 0.0%
言葉の習得段階に応じた援助	345 92.2%	12 3.2%	17 4.5%	333 95.4%	12 3.4%	4 1.1%
絵本や物語など、子どもの発達や興味・関心に即したものの提供	366 97.9%	4 1.1%	4 1.1%	344 98.3%	5 1.4%	1 0.3%
言葉のやり取りができるような援助	368 98.1%	5 1.3%	2 0.5%	343 98.3%	6 1.7%	0 0.0%

※網掛けは、「以前から…」の欄は95%未満のもの、「新たに…」と「…していない」の欄は5%以上のもの

表25 1歳児の表現における指導計画への反映状況と実際の援助の実施状況

【1歳児・表現】	指導計画への反映状況			実際の援助の実施状況		
	指導計画に入っていた	以前から指導計画に入っていた	新たに指導計画に加えた	以前から実施していた	新たに実施するようになった	実施していない
歌や簡単な手遊びに慣れ親しむような関わり	369 99.2%	2 0.5%	1 0.3%	343 99.1%	3 0.9%	0 0.0%
自分なりにイメージを広げて表現することができる援助	335 90.3%	17 4.6%	19 5.1%	316 91.9%	20 5.8%	8 2.3%
様々な素材に触れる環境整備	345 93.2%	16 4.3%	9 2.4%	317 92.2%	19 5.5%	8 2.3%
身体の動きを表現できる環境整備	361 97.0%	6 1.6%	5 1.3%	336 96.8%	7 2.0%	4 1.2%
様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり感じたりできるような環境構成	335 90.8%	15 4.1%	19 5.1%	319 92.2%	13 3.8%	14 4.0%
イメージや感性を豊かにする経験ができるような工夫	322 87.3%	19 5.1%	28 7.6%	307 88.7%	22 6.4%	17 4.9%
試行錯誤しながら様々な表現を楽しむための温かい見守り	323 87.3%	20 5.4%	27 7.3%	316 91.1%	22 6.3%	9 2.6%
自分の力でやり遂げる充実感に気付くことができる援助	334 89.8%	16 4.3%	22 5.9%	317 91.4%	21 6.1%	9 2.6%
自信をもって表現できるような関わり	331 89.5%	16 4.3%	23 6.2%	324 92.6%	16 4.6%	10 2.9%
発見や心が動く経験ができるような環境整備	314 85.1%	28 7.6%	27 7.3%	307 88.2%	30 8.6%	11 3.2%

※網掛けは、「以前から…」の欄は95%未満のもの、「新たに…」と「…していない」の欄は5%以上のもの

かった。環境に関する項目では、「物の性質や仕組みに気付くことのできる環境構成」「自分の物と人の物の区別や場所的感覚など、環境を捉える感覚の育成」「地域の生活に対する興味や関心」「生命の尊さに対する気付きを促す関わり」「社会とのつながりや地域社会の文化に気付く関わり」は、「指導計画に記載していない」という回答が比較的多く、具体的な援助をしていないという回答も比較的多かった。「感覚の発達が促されるような、音質、形、色、大きさなど、子どもの発達に応じた適切な玩具の選定」は、実際の援助は行っているが、「指導計画に記載していない」という回答が比較的多かった。言葉に関する項目では、「心のこもった日常の挨拶」「状況を説明する言葉などを補う援助」が、「指導計画に記載していない」という回答が比較的多かった。表現に関する項目では、「自分なりにイメージを広げて表現することができる援助」「様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり感じたりできるような環境構成」「イメージや感性を豊かにする経験ができるような工夫」「試行錯誤しながら様々な表現を楽しむための温かい見守り」「自分の力でやり遂げる充実感に気付くことができる援助」「自信をもって表現できるような関わり」「発見や心が動く経験ができるような環境整備」などの項目は、5%以上が指導計画に記載していなかった。

③ 2歳児の保育内容の変化

2歳児クラス担当者が項目毎にそれぞれの選択肢を選んだ回答者数と回答率を求め、表に示した。健康に関する項目については表26に、人間関係に関する項目については表27に、環境に関する項目については表28に、言葉に関する項目については表29に、表現に関する項目については表30に、それぞれ示した。

全般的には、いずれの項目も、指導計画への反映状況としては「以前から指導計画に入っていた」という回答が多く、また具体的な援助状況としても「以前から実施していた」という回答が多かった。2歳児クラスにおいても、多くの園では、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改定(訂)に伴って、大きく保育が変化したわけではないことが唆される。ただ、1歳児と同様に項目によってその回答率は異なり、100%に近い回答率の項目もあれば、回答率が7割程度にとどまる項目もみられた。

「以前から指導計画に入っていた」という回答率が95%を下回っている項目（表中グレーの網掛けで

表示）を数えてみると、健康に関する項目は3項目（うち90%を下回っている項目はなし）、人間関係に関する項目は4項目（うち90%を下回っている項目は3項目）、環境に関する項目は7項目（うち90%を下回っている項目は4項目）、言葉に関する項目は5項目（うち90%を下回っている項目は1項目）、表現に関する項目は8項目（うち90%を下回っている項目は3項目）であった。同様に実際の援助状況についてみると、健康に関する項目は2項目（うち90%を下回っている項目はなし）、人間関係に関する項目は4項目（うち90%を下回っている項目は2項目）、環境に関する項目は7項目（うち90%を下回っている項目は4項目）、言葉に関する項目は2項目（うち90%を下回っている項目はなし）、表現に関する項目は7項目（うち90%を下回っている項目は1項目）であった。これらの結果はおおむね1歳児と類似していた。健康や言葉に関する保育内容・実践は、従来から比較的に取り組まれており、環境、表現に関する保育内容・実践はやや少ないという結果であった。

指導計画への反映状況や援助の実施状況が比較的变化した項目として、「新たに・・・」という選択肢を選んだ率が5%以上のもの（表中グレーの網掛けで表示）について以下に記述する。

健康に関する項目では、「新たに指導計画に加えた」という回答や「新たに実施するようになった」という回答が比較的多い項目は「走る、跳ぶ、登る、押す、ひっぱるなど全身を使う遊び」だけであった。

人間関係に関する項目では、「自らきまりの大切さに気付く援助」「不安な気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることの大切さに気付く援助」「様々な人がいることへの気付きを促す援助」などが、「新たに指導計画に加えた」という回答や「新たに実施するようになった」という回答が、比較的多かった。

環境に関する項目では、「物の性質や仕組みに気付くことのできる環境構成」「地域の生活に対する興味や関心」「発見を楽しんだり、考えたりすることができるような援助」「生命の尊さに対する気付きを促す関わり」「社会とのつながりや地域社会の文化に気付く関わり」が、「新たに指導計画に加えた」という回答や「新たに実施するようになった」という回答が比較的多かった。

言葉に関する項目では、「新たに指導計画に加えた」という回答が多い項目はなく、「新たに実施するようになった」という回答が多い項目も「状況を説明する言葉などを補う援助」だけであった。

表26 2歳児の健康における指導計画への反映状況と実際の援助の実施状況

【2歳児・健康】	指導計画への反映状況			実際の援助の実施状況		
	以前から指導計画に入っていた	新たに指導計画に加えられた	指導計画に記載していない	以前から実施していた	新たに実施するようになった	実施していない
安定感をもって生活できるよう受容	387 98.5%	3 0.8%	3 0.8%	374 99.5%	0 0.0%	2 0.5%
生活リズムの形成	385 98.0%	4 1.0%	4 1.0%	370 98.4%	6 1.6%	0 0.0%
走る、跳ぶ、登る、押す、ひっぱるなど全身を使う遊び	361 91.9%	21 5.3%	11 2.8%	350 92.8%	22 5.8%	5 1.3%
清潔に保つ心地よさの習慣の獲得	382 97.2%	8 2.0%	3 0.8%	370 98.4%	6 1.6%	0 0.0%
ゆったりとした排泄を促す環境	365 92.9%	15 3.8%	13 3.3%	352 93.6%	17 4.5%	7 1.9%
身体を動かそうとする意欲の育成	369 93.9%	16 4.1%	8 2.0%	359 96.0%	13 3.5%	2 0.5%
食べる喜びや楽しさを味わえる雰囲気	387 98.5%	3 0.8%	3 0.8%	373 99.5%	2 0.5%	0 0.0%
個人差に応じて排泄に少しずつ慣れさせる対応	382 97.4%	5 1.3%	5 1.3%	371 98.9%	4 1.1%	0 0.0%
食事、排泄、睡眠、衣服の着脱、身の周りの清潔など、自分でしようとする気持ちの尊重	382 97.2%	10 2.5%	1 0.3%	370 98.4%	6 1.6%	0 0.0%
基本的な生活習慣の形成についての家庭との連携	375 95.7%	14 3.6%	3 0.8%	362 96.3%	14 3.7%	0 0.0%

※網掛けは、「以前から…」の欄は95%未満のもの、「新たに…」と「…していない」の欄は5%以上のもの

表27 2歳児の人間関係における指導計画への反映状況と実際の援助の実施状況

【2歳児・人間関係】	指導計画への反映状況			実際の援助の実施状況		
	以前から指導計画に入っていた	新たに指導計画に加えられた	指導計画に記載していない	以前から実施していた	新たに実施するようになった	実施していない
人と共に過ごす心地よさを感じられるような、思いの受け入れ	382 97.2%	11 2.8%	0 0.0%	367 98.4%	6 1.6%	0 0.0%
他の子どもとの多様な関わり	377 96.2%	10 2.6%	5 1.3%	363 97.6%	7 1.9%	2 0.5%
自らきまりの大切さに気付く援助	346 88.5%	29 7.4%	16 4.1%	338 91.1%	28 7.5%	5 1.3%
他の年齢の子どもの存在を感じ楽しめるような援助	357 91.1%	19 4.8%	16 4.1%	353 94.6%	15 4.0%	5 1.3%
気持ちを尊重し、温かく愛情豊かで応答的な関わり	374 95.2%	14 3.6%	5 1.3%	365 97.3%	10 2.7%	0 0.0%
思い通りにいかないときなどの子どもの気持ちの受け止め	372 94.9%	12 3.1%	8 2.0%	362 96.5%	10 2.7%	3 0.8%
不安な気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることの大切さに気付く援助	331 84.7%	27 6.9%	33 8.4%	336 89.8%	25 6.7%	13 3.5%
様々な人がいることへの気付きを促す援助	333 84.9%	27 6.9%	32 8.2%	331 88.5%	30 8.0%	13 3.5%
自分の気持ちを相手に伝えることの大切さを知らせる関わり	383 97.5%	6 1.5%	4 1.0%	367 98.1%	7 1.9%	0 0.0%
相手の気持ちに気付くことの大切さを知らせる関わり	376 95.4%	10 2.5%	8 2.0%	362 96.5%	10 2.7%	3 0.8%

※網掛けは、「以前から…」の欄は95%未満のもの、「新たに…」と「…していない」の欄は5%以上のもの

表28 2歳児の環境における指導計画への反映状況と実際の援助の実施状況

【2歳児・環境】	指導計画への反映状況			実際の援助の実施状況		
	ついでに 導計画に入 以前から指 導計画に入 った	新たに指 導計画に加 えられた	記載してい ない	以前から実 施していた	新たに実施 するようにな った	実施してい ない
見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにし、探索活動を促す環境構成	375 95.7%	8 2.0%	9 2.3%	363 97.8%	7 1.9%	1 0.3%
玩具、絵本、遊具などを使った遊びを楽しむことのできる環境構成	382 97.2%	8 2.0%	3 0.8%	367 98.4%	6 1.6%	0 0.0%
物の性質や仕組みに気付くことのできる環境構成	288 74.8%	35 9.1%	62 16.1%	286 77.9%	34 9.3%	47 12.8%
自分の物と人の物の区別や場所的感覚など、環境を捉える感覚の育成	353 91.0%	14 3.6%	21 5.4%	344 92.7%	14 3.8%	13 3.5%
身近な生き物に気付き、親しみをもつことのできる環境構成	380 96.7%	10 2.5%	3 0.8%	365 97.3%	8 2.1%	2 0.5%
地域の生活に対する興味や関心	283 72.6%	36 9.2%	71 18.2%	281 75.1%	34 9.1%	59 15.8%
感覚の発達が促されるような、音質、形、色、大きさなど、子どもの発達に応じた適切な玩具の選定	354 90.5%	18 4.6%	19 4.9%	344 92.0%	17 4.5%	13 3.5%
発見を楽しんだり、考えたりすることができるような援助	357 91.8%	24 6.2%	8 2.1%	344 92.5%	23 6.2%	5 1.3%
生命の尊さに対する気付きを促す関わり	332 85.1%	21 5.4%	37 9.5%	328 88.6%	23 6.2%	19 5.1%
社会とのつながりや地域社会の文化に気付く関わり	297 76.9%	20 5.2%	69 17.9%	294 79.2%	19 5.1%	58 15.6%

※網掛けは、「以前から…」の欄は95%未満のもの、「新たに…」と「…していない」の欄は5%以上のもの

表29 2歳児の言葉における指導計画への反映状況と実際の援助の実施状況

【2歳児・言葉】	指導計画への反映状況			実際の援助の実施状況		
	ついでに 導計画に入 以前から指 導計画に入 った	新たに指 導計画に加 えられた	記載してい ない	以前から実 施していた	新たに実施 するようにな った	実施してい ない
自分で言葉を使おうとしたときのありのままの受け止め	358 92.7%	13 3.4%	15 3.9%	350 96.2%	10 2.7%	4 1.1%
生活に必要な言葉に対する気付きを促す関わり	370 96.1%	8 2.1%	7 1.8%	358 98.1%	4 1.1%	3 0.8%
心のこもった日常の挨拶	351 90.9%	11 2.8%	24 6.2%	345 94.5%	10 2.7%	10 2.7%
人の言葉や話を興味をもって聞く機会の提供	361 93.5%	12 3.1%	13 3.4%	351 95.6%	11 3.0%	5 1.4%
言葉のやりとりを楽しめるような関わり	381 98.7%	5 1.3%	0 0.0%	362 99.2%	3 0.8%	0 0.0%
状況を説明する言葉などを補う援助	334 86.8%	18 4.7%	33 8.6%	336 92.3%	19 5.2%	9 2.5%
思いを察し、共感した受け止め	373 97.1%	7 1.8%	4 1.0%	355 97.3%	9 2.5%	1 0.3%
言葉の習得段階に応じた援助	360 93.3%	11 2.8%	15 3.9%	353 96.2%	10 2.7%	4 1.1%
絵本や物語など、子どもの発達や興味・関心に即したものの提供	377 97.4%	4 1.0%	6 1.6%	359 97.8%	4 1.1%	4 1.1%
言葉のやり取りができるような援助	379 98.2%	4 1.0%	3 0.8%	364 99.2%	2 0.5%	1 0.3%

※網掛けは、「以前から…」の欄は95%未満のもの、「新たに…」と「…していない」の欄は5%以上のもの

表30 2歳児の表現における指導計画への反映状況と実際の援助の実施状況

【2歳児・表現】	指導計画への反映状況			実際の援助の実施状況		
	以前から指導計画に入っていた	新たに指導計画に加えられた	記載していない	以前から実施していた	新たに実施するようになった	実施していない
歌や簡単な手遊びに慣れ親しむような関わり	378	6	2	362	3	1
	97.9%	1.6%	0.5%	98.9%	0.8%	0.3%
自分なりにイメージを広げて表現することができる援助	361	20	5	342	20	4
	93.5%	5.2%	1.3%	93.4%	5.5%	1.1%
様々な素材に触れる環境整備	363	14	10	343	19	6
	93.8%	3.6%	2.6%	93.2%	5.2%	1.6%
身体の動きを表現できる環境整備	371	7	7	354	7	6
	96.4%	1.8%	1.8%	96.5%	1.9%	1.6%
様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり感じたりできるような環境構成	350	21	13	344	16	8
	91.1%	5.5%	3.4%	93.5%	4.3%	2.2%
イメージや感性を豊かにする経験ができるような工夫	343	27	15	335	24	8
	89.1%	7.0%	3.9%	91.3%	6.5%	2.2%
試行錯誤しながら様々な表現を楽しむための温かい見守り	324	25	32	331	23	12
	85.0%	6.6%	8.4%	90.4%	6.3%	3.3%
自分の力でやり遂げる充実感に気付くことができる援助	349	15	19	344	15	9
	91.1%	3.9%	5.0%	93.5%	4.1%	2.4%
自信をもって表現できるような関わり	356	14	13	351	12	5
	93.0%	3.7%	3.4%	95.4%	3.3%	1.4%
発見や心が動く経験ができるような環境整備	328	31	24	319	32	17
	85.6%	8.1%	6.3%	86.7%	8.7%	4.6%

※網掛けは、「以前から…」の欄は95%未満のもの、「新たに…」と「…していない」の欄は5%以上のもの

表現に関する項目では、「自分なりにイメージを広げて表現することができる援助」「様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり感じたりできるような環境構成」「イメージや感性を豊かにする経験ができるような工夫」「試行錯誤しながら様々な表現を楽しむための温かい見守り」「発見や心が動く経験ができるような環境整備」は「新たに指導計画に加えた」という回答が比較的多く、「自分なりにイメージを広げて表現することができる援助」「様々な素材に触れる環境整備」「イメージや感性を豊かにする経験ができるような工夫」「試行錯誤しながら様々な表現を楽しむための温かい見守り」「発見や心が動く経験ができるような環境整備」は「新たに実施するようになった」という回答が比較的多かった。

「指導計画に記載していない」という回答や具体的な援助を「実施していない」という回答が5%以上のもの（表中グレーの網掛けで表示）について記述する。健康に関する項目では、回答率が5%以上の項目はみられなかった。人間関係に関する項目では、「不安な気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることの大切さに気付く援助」「様々な人がいることへの気付きを促す援助」が5%以上のものが指導計画に記載していなかった。環境に関する項目では、「物の性質や仕組みに気付くことので

きる環境構成」「地域の生活に対する興味や関心」「生命の尊さに対する気付きを促す関わり」「社会とのつながりや地域社会の文化に気付く関わり」は、実際の援助は行っているが、「指導計画に記載していない」という回答が比較的多かった。言葉に関する項目では、「心のこもった日常の挨拶」「状況を説明する言葉などを補う援助」が、「指導計画に記載していない」という回答が比較的多かった。表現に関する項目では、「試行錯誤しながら様々な表現を楽しむための温かい見守り」「自分の力でやり遂げる充実感に気付くことができる援助」「発見や心が動く経験ができるような環境整備」が、「指導計画に記載していない」という回答が比較的多かった。

17) 保育士等キャリアアップ研修の受講状況

「あなたは保育士等キャリアアップ講座を受講しましたか。どちらかを選んでください。」として、「はい・いいえ」の2つの選択肢を示した。それぞれを選んだ人数とその割合を示したものが表31である。どの年齢クラスにおいても、6割程度の保育者が受講していた。

表31 保育士等キャリアアップ研修の受講状況

	0歳児クラス(364)		1歳児クラス(394)		2歳児クラス(395)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
はい	232	63.7	236	59.9	244	61.8
いいえ	125	34.3	135	34.3	139	35.2
無回答	7	1.9	23	5.8	12	3.0

18) 保育士等キャリアアップ研修の受講の内容

保育士等キャリアアップ講座の受講の設問に続いて「「はい」と回答された方は、受講した講座すべてに○をつけてください。」として8つの講座名を示した。各講座を選択した人数とその割合を示したものが表32である。どの年齢クラスにおいても「乳児保育」の受講者が多く、次いで「保護者支援・子育て支援」「障害児保育」「マネジメント」の受講が3割を超えていた。また、年齢が上がるにつれて「幼児教育」の受講者が多くなり、「保護者支援・子育て支援」は減少した。

表32 保育士等キャリアアップ研修の受講内容

	0歳児クラス(232)		1歳児クラス(236)		2歳児クラス(244)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
a. 乳児保育	143	61.6	135	57.2	136	55.7
b. 幼児教育	66	28.4	68	28.8	79	32.4
c. 障害児保育	81	34.9	79	33.5	86	35.2
d. 食育・アレルギー対応	51	22.0	54	22.9	45	18.4
e. 保健衛生・安全対策	53	22.8	53	22.5	56	23.0
f. 保護者支援・子育て支援	85	36.6	74	31.4	75	30.7
g. マネジメント	71	30.6	72	30.5	77	31.6
h. 保育実践	20	8.6	34	14.4	30	12.3

19) 新たに取り入れた保育内容・実践

「現行の指針や教育・保育要領に改定(訂)されてから、あなたのクラスの保育で新たに取り入れた保育内容・実践(教材などを含む)があればお書きください。」として自由に記述してもらった。0歳児は29人、1歳児は29人、2歳児は27人の記入があった。記述内容を分析したところ、①保育内容、②指導計画・記録、③子どもへの関わり、④保育環境、⑤遊具・玩具・教材、⑥その他の6つのカテゴリーに分類することができた。なお、記述に複数のカテゴリーの内容が含まれているものは記述を分けてそれぞれのカテゴリーに分類した。

0歳児クラス担当者の回答を表33に、1歳児の回答を表34に、2歳児の回答を表35に示した。6つのカテゴリーそれぞれについて述べる。

①保育内容

0歳児では、「アクティブラーニングの視点から保育を見直す」「改定に基づく教材書を読み合わせて保育内容を検討」「育児担当制」などが、1歳児では「リトミックやコーナー遊び、食育などを取り入れる」「一斉に行うことよりも子どもの主体性を大事にすること」などが、2歳児では「リトミックや食育などを取り入れる」「発達を見通して考えること」「生活習慣の形成を早めに取り組むこと」「非認知能力を育むこと」などが記述されていた。

アクティブラーニングや非認知能力など、今回の改定でキーワードとなったことを意識して保育の内

容に取り入れていることがわかった。

②指導計画・記録

0歳児では、「10の姿につながる活動を意識」「個人指導計画の形式の変更」「毎日の記録に個人日誌の導入」などが、1歳児では「指導計画や記録に改定された指針を意識するようになったこと」や、「より具体的な記述を心がけるようになった」などが、2歳児では「指導計画について話し合い、PDCAサイクルを取り入れた」「指導計画に的確に記載し実践している」などが記述されていた。

今回の改定では、乳児期からの子どもの育ちの連続性を踏まえ、保育の内容を総合的に実践していくことが求められている。0歳児から「10の姿」を意識していることや、PDCAサイクルを取り入れていることなどから、よりよい保育につなげていくことを意識して実践されている。

③子どもへの関わり

0歳児では、「より個人や親に寄り添う」「子どもの気持ちに沿った声かけ」「3つの視点を意識した関わり」「応答的な関わり」などが、1歳児では「3つの視点や10の姿を意識」「個別の丁寧な関わりを意識」などが、2歳児では「個々に応じた関わりをすること」「集団生活の楽しさを伝えるとともに、一人ひとりに合わせた関わりをすること」などが記述されていた。

子どもと保育者が安定した愛着関係を結ぶためには、保育者の受容的・応答的な関わりが大切である。年齢が低いほど個別の温かい関わりが必要であり、改定を機会に改めて認識されたと思われる。

④保育環境

0歳児では、「遊びを通して感覚が発達するような環境づくり」「子どもが主体的に遊び、生活する環境づくり」「長時間保育の子どもがゆったりできるスペースを作る」などが、1歳児では「子どもの主体性を大切にした環境」「落ち着いて過ごせる環境」などが、2歳児では「子どもの動線の工夫」「子どもが主体的に遊べる環境づくり」「コーナー遊びの設定」などが記述されていた。

今回の改定の「情緒の安定」のねらいにおいて、「くつろぐ」という言葉が入れているように、一人ひとりがくつろいで過ごせる環境づくりが求められている。0・1歳児では、そのことが意識され、2歳児では子どもの活動を意識していることが窺えた。

表33 新たに取り入れた保育内容・実践（0歳児クラス）

保育内容	指導計画・記録	子どもへの関わり	保育環境	遊具・玩具・教材	その他
・アクティブラーニングの視点から保育を見直すよう心がけている。 ・改定に基づく教材書など読み合わせて、保育内容などを検討した。 ・異年齢の交流を多く取り入れている。 ・育児担当制による乳児保育	・10の姿につながる活動が、計画、評価の時に意識し、少なかった時には、次の指導計画に生かしていく。 ・個人指導計画の形式を変えた。 ・毎日の個人日誌を取り入れた。	・0歳児クラスなので愛着関係が育つように関わってきたが、より一層個人や親に寄り添えるように保育にあたっている。 ・保育の中での声かけは、子どもの気持ちに沿った声かけを意識し、優しく、心に響く言葉かけを行うように心がけている。 ・今まで以上に一人ひとりの生活リズムを大切にしたり、発達に応じた一人ひとりへの援助、関わりをし、より一人ひとりに寄り添い援助することが増えていると思う。 ・保育内容に変わりはないが、より丁寧により一人ひとりの発達を促す保育を心がけている。 ・以前から行っていたかわり方も3つの視点を意識して行うようになった。 ・応答的な関わりをより大切にできるようになった。	・探索的な遊びをこれまでよりも多く取り入れ、制止や禁止をなるべくなくとも済むように環境を整えている(安全に過ごせるよう)。 ・できるだけ探索活動ができるよう、壁にドアをつけたり、布を用意したり、遊びを通して感覚が発達するよう工夫している。 ・子どもが主体的に遊ぶ、生活できる環境を作ることより重要とするようになった。 ・長時間保育の子どもがゆっくりと休息が出来るようなスペースを作った。 ・一人ひとりに応じた環境を整えることが増えてきていると思う。 ・子どもがおもちゃを使って自由に遊べる環境を整えた。 ・乳児一人ひとりの発達に合わせた環境を整えている。 ・室内環境を生活と遊びで明確に分けた。	・個々の発達に合った発達を促すような手作りの玩具を常に用意する ・ポプルスドーナツ(ポネルド社の)というバランスボールを使用した体幹を鍛える遊び ・手作り絵本「いいいはいあ」「だるまさんがころんだ」 ・子どもの発達に合わせた手作り玩具を作成した。 ・子どもの興味に合わせた手作り玩具を用意した。 ・一人ひとりの発達に合わせた玩具を用意している。 ・ベビーマッサージ ・わらべうたあそび ・モビール(光、回転、色…) ・楽器遊び(触れ合い)	・フリー保育参観とクラス懇談を行い、保護者に保育指針の改定について、乳児保育の大切さについて知らせた。 ・保育士の教材「3000万語の格差」 ・ルクミー午睡チェックセンサー ・ルクミー午睡チェックの導入

表34 新たに取り入れた保育内容・実践（1歳児クラス）

保育内容	指導計画・記録	子どもへの関わり	保育環境	遊具・玩具・教材	その他
・園全体でリトミック表現等で子ども達が表現していく楽しさ、友達と一緒にやっていく喜び等を感じながら取り組んでいる。 ・足、手の感覚を促す遊びを実施する(戸外で裸足で過ごす。指先を使う手作りおもちゃ。足裏の発達を促すおもちゃ) ・ままごとコーナー、絵本コーナーでのゆったりした遊びの時間を取るように心がけている。 ・保育士が提供することが多かったが、見守りを多くし主体性を大切に子ども自身の決めた遊び、活動が楽しめる保育。 ・一律の保育内容や生活のリズムを見直し、午睡の時間、有無も含め一人ひとりに合わせることをより意識するようになった。 ・農園での野菜栽培を散歩時に見たり、3歳以上児が収穫した野菜を見たりしている。 ・子育て支援の分野から多世代交流を取り入れたデイサービスと1歳児のふれあい交流。 ・一斉保育ではなく、子どもの主体性を大切にし、子どもが好きな遊びが楽しめるようにしている。 ・メディアアドバイザー言語発達検査キッドの資格を取り個別支援として実践している。 ・食事やおやつのタイミングを一斉ではなく子どもの方から着席できるようにした。 ・園全体で保育のあり方を見直し、コーナー保育を導入したのち育児担当制を取り組み始めた。 ・絵本の読み聞かせからの活動展開(食育、製作、基本的な生活習慣、水遊び、行事等) ・一人ひとりの生活リズム(おやつ、給食、排泄、午睡)を大切に ・全員で一斉に製作や絵を描くなどの一斉の活動をしなくなった。 ・家庭と大差のない保育(家庭的な雰囲気作り)を目指している。 ・感覚が楽しめるような遊びを取り入れた。 ・本物の野菜を見たり触れたりする(食育) ・今年度より1・2歳児の保育内容に緩やかな担当制を取り入れている。 ・緩やかな担当制保育を行っている。 ・遊び(活動)の中に「光」を取り入れた。 ・生活担当制保育少人数での活動 ・育児担当制	・指導計画や実践記録等を作成するにあたり、改定された指針等を意識するようになった。 ・指導計画に、より具体的な記述をするように心がけるようになった。 ・保育日誌を個人の保育日誌に変更した。 ・クラス打ち合わせ(月2回)を行う。	・自己肯定感を高められるように、個人を認めるようにする関わりが出来るよう話し合っている。 ・排泄面ではチェック表を作成し、一人ひとりの排尿間隔を把握している。 ・おむつ交換などを一斉にはせず、個々の状態に応じて対応している。 ・乳児保育の3つの視点、育ってほしい10の姿を念頭に置いている。 ・不適切な関わりをチェックする。(チェック表を使って実施)	・1歳児の部屋の環境をどう構成していくかを本を見たり調べたり園長に相談しながら試行錯誤しまだまだだが取り組んでいるところである。 ・子どもの主体性を大切に、子どもが好きな遊びが楽しめるような環境作りをしている。 ・子どもたちが自ら遊びたい玩具を持ってこられるような環境にしている。 ・環境構成の見直しを行い、落ち着いて遊んだり過ごしたり出来るように工夫した。 ・発達や年齢に合わせた玩具を選び、環境設定をしていく ・手洗い場の装飾等、清潔にする事の心地良さを伝えている。 ・ひとり遊びを十分に楽しめる環境作り。 ・子どもの姿に合わせて環境を整えている。	・ワークショップの充実化(ストロー落とし、洗濯ばさみ、型はめ、お手玉遊び、紐通し、ボタンかけ等)視覚教材の充実(日付、出欠、歌カード、散歩カード等) ・おもちゃの配置変更。コーナーを作ってみた。様々な感触遊びが出来るよう材料を用意し、保育に取り入れてみた。 ・子ども達が主体的に遊びを選択できるよう1つの遊びでも23種類の玩具を出して保育している。 ・子ども達が興味を持ち、自分から遊びたいと思える玩具を作り、保育に取り入れている。 ・改定に基づいた年齢に沿った遊具を保育室に設定した。 ・五感が刺激されるような遊具や活動を積極的に増やした。 ・手作りおもちゃを取り入れている(指先を使う遊びなど)。 ・発達や年齢に合わせた玩具を選べるよう、環境設定をしている。 ・子どもの姿に合わせて手作り玩具を準備している。	・10の姿を可視化し、保護者にどのような意図で活動をしているのか伝えていけるよう写真付きの掲示を少しずつ行っている。 ・食育だよりを「メディア食育だより」と改名して毎月発行している。 ・園内研修、ドキュメンテーションの取り組み。

表35 新たに取り入れた保育内容・実践（2歳児クラス）

保育内容	指導計画・記録	子どもへの関わり	保育環境	遊具・玩具・教材	その他
・0歳～5歳の発達を見通し、今育んでいる力がその後の生活や学習で生かされるよう、遊び、環境、運動遊び、様々な経験や人との関わりについて考えている。不定期であるが、園児の実態に合わせた保育となるよう話し合うことがある。（環境が整えられるよう） ・毎日朝の体操、マラソンに参加し3歳以上児の体操する姿や、マラソンをする姿を見て自分たちも同じようにやる気持ちを受け止め、体力的な向上につながるようになっている。 ・以前のように型通りにするのではなく、毎月設定して製作を特に決めず、子どものその時の時の状態を見ながら、自由に感じて時間を設けてするようになった。 ・自分の手拭きタオルや口拭きタオルを以前より早い時期に自分たちで片付け、生活習慣の形成を早めに取り組み身につけるようになった。 ・3つの視点10の姿など意識しながら保育を進めたり振り返りを大切にしよう心がけている。 ・活動の合間などにふれあいあそび、わらべうたあそびを取り入れて友達と少しでも関わって遊ぶ機会を設けるようになった。 ・メディアアドバイザー言語発達検査キッドの資格を取り個別支援として実践。保護者会の中でも講話している。 ・身体表現を楽しめる！リミック遊びを取り入れて表現しながら身体能力も伸ばせるようにしている。 ・農園での野菜栽培で2歳児クラスも出来る所をやっている。（畑へ行き観察したり野菜の収穫） ・自主性ということを大切にしたい保育を心掛けている。 ・一人ひとりの生活リズム（おやつ、給食、排泄、午睡）を大切にしている。 ・遊びやふれあいの時間を以前より活動の中に多く取り入れるようになった。 ・非認知能力を育むため自然の中での保育をより充実。 ・ボール遊びを増やし、物を目で見て追いかける活動の経験を増やした。 ・保育者主体から子ども主体に変えた保育を取り入れている。 ・はだし保育を始めた。 ・担当制保育	・子どもたち（クラス全体・個人）の様子や、日頃の保育について保育計画等をクラス内の担任間で話し合いをし、PDCAサイクルを取り入れている。 ・今まで心掛けてきた事と新たに指針が変わったことで指導計画に的確に記載し、さらに実践できるようになっている。 ・養護教育を指導計画に取り入れた。	・キャリアアップ研修の乳児保育で学んだことについて、子どもとのかかわりの中で個々に応じたかかわりができるように気を付けている。 ・集団生活の楽しさを伝えるとともに一人ひとりに合わせた関わり。	・面積基準はクリアしているが活動によって場所の構造化を行い、保育上の動線が円滑になるよう工夫している。 ・子ども達が自分で気づき、考え、遊べるように環境設定を考え遊びの幅が広がるよう、日々の活動でも気にして工夫をしている。 ・ままごとコーナーで遊ぶ中で友達同士の関わりや自分たちで決めた役割を楽しめるようにしている。 ・絵本コーナーでは自分の好きな本を読んだり、保育士の読み聞かせを楽しめるようにしている。 ・遊びを”自ら”選択し、自分の想いで活動できるようにいくつかのコーナーを設けている。 ・一人ひとりの興味関心にあった遊びの環境を整えている。 ・子どもの興味を引き出す工夫、環境づくり。 ・子ども達が主体的に活動できる環境作りを心掛ける。 ・主体性が育まれるように部屋内環境の見直し。 ・子どもの興味や発達に合わせて環境を設定している。 ・子どもが自由に遊べる環境づくり。 ・遊びに夢中となる環境づくり。	・絵本棚の絵本のほかに季節に合った内容のものや子どもの成長に合わせた絵本を用意し自由に見ることが出来るようにした。 ・巧技台、バランスボード等で体感を小さいうちから遊びの中で取り入れられるように導入した。 ・メダカの飼育を始め、保育室のすぐ前のカウンターに置いてあるので観察している。 ・モンシロチョウの幼虫を飼い、さなぎになり羽化して蝶になるまで子どもたちと見守った。 ・ホワイトサンド、シュレッダーの紙あそび、寒天あそびなど感覚が色々な経験できる物。 ・空間を使った遊びや色々な素材を増やし感覚遊びをさらに多く取り入れている。 ・主体性が育まれるようにコーナー遊びの玩具の見直し ・カタツムリを飼い餌をあげたり観察している。 ・「みたて・つもらあそび」が楽しめるようなままごとの教材。 ・子ども達が選択して遊べる環境（主体性） ・手作りおもちゃで外遊びの楽しさを広げた。 ・世界の国旗カードを作り、遊びに取り入れた。 ・考える力を育む玩具。 ・様々な感覚遊び	・「食育だより」を「メディア、食育だより」と改名して毎月発行している。 ・保護者支援（子育てサポート）に関する事など。

⑤遊具・玩具・教材

0歳児では、「個々の発達を促す手作りの玩具」「体幹を鍛える遊び」「手作りの玩具」などが、1歳児では「ワークショップや視覚教材の充実」「感触遊びの導入」「発達を促す手作り遊具」などが、2歳児では「絵本やままごと」「感触遊び」「メダカやモンシロチョウ、カタツムリの飼育」などが記述されていた。

今回の改定では、3歳未満の子どもが生活や遊びの場面で主体的に周囲に関わる姿を「学びの芽生え」として捉えている。子どもが興味をもち、直接経験するための様々な玩具や教材、生き物との関わりを取り入れていることが明らかになった。

⑥その他

0歳児では、「保護者への乳児保育の大切さの周知」「ルクミー午睡チェックセンサーの導入」などが、1歳児では「10の姿を意識した関わりの保護者

への周知」「食育だよりの発行」などが、2歳児では「食育や保護者支援」などについて記述されていた。

保育の見直しをしたことをきっかけに、乳児保育の大切さや保育者の関わりの意図、食の大切さを保護者に周知したり、安全対策を図るなど、新たに取り入れていることがわかった。

Ⅲ. ヒアリング調査

社会福祉法人 愛育会 あけぼの愛育保育園
園長 北野 久美
(福岡県北九州市小倉南区沼緑町2-1-40)

訪問日時：令和元年11月29日（金）11:00
調査者名：千葉武夫（聖和短期大学教授）
清水益治（帝塚山大学教授）

中島 一（天野山保育園園長）
碓氷ゆかり（聖和短期大学教授）

1. 園の概要

当園は、「もう一つのおうち」をコンセプトとして、子どもにとっても、大人にとっても、学びとくつろぎと安心感に包まれた“居場所”を目指し、平成24年に開園した。園舎は2階建てで木のぬくもりや四季折々の自然が感じられる、家庭的な雰囲気である。定員は70人（0歳児9人、1歳児10人、2歳児12人、3歳児15人、4歳児13人、5歳児11人）。開園時間は午前7:00～午後7:00、月曜日～土曜日。

●特別保育事業など

①延長保育

標準保育時間者は18時～19時、短時間保育者は朝7時～9時、17時～19時まで延長。利用にあたっては別途料金が必要。

②一時保育

家庭での保育が困難になった場合に行う。

- ・断続的保育サービス：保護者の短期の仕事の場合（週3日を限度）
- ・緊急保育サービス：保護者の病気、出産等の場合（連続14日を限度）
- ・育児リフレッシュ保育サービス：保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消（週3日を限度）

③障がい児保育

通常保育での受け入れに加え、延長保育、一時保育を含めて統合保育の可能な障がいのある子どもの受け入れを行う。また、障がいのある子どもの福祉の向上と保護者の就労を支援する為、関係機関の協力のもと、統合保育の可能な重度の障がいのある子どもを直営保育所で受け入れる。

※加配について

- ・特別児童扶養手当支給対象児童1人または障がい児3人につき保育士1人
- ・障がい児2人につき5時間パート保育士1人
- ・特別児童扶養手当支給対象児童が2人いても、同一学齢の場合は保育士1人プラス5時間パート保育士1人となる。

2. ヒアリングの内容

1) 保育所保育指針改定後に見直しをしたこと

当園では、指針の改定で新たに示された「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」の3つの視点に

ついて、これまでも園で大事に捉えていたことが明文化され、1歳以上3歳未満児の保育の5領域についても、子どもを見る視点の窓口として捉えている。その上で、指針改定に伴い、指導計画等の見直しを行った。

①全体的な計画

全体的な計画については、平成30年度に園内で検討をし、改定された指針の内容を反映させて作成したが、さらに検討を重ね、31年度に再度作成した。しかし、5領域の内容を年齢で区切ることや、1枚の用紙に収めようとするには無理があり、どのようにまとめるかが課題となっている。また、保健計画・食育計画をどのように全体的な計画に入れていくかを検討することも課題となっている。

指導計画については、長期計画・短期計画ともに、今回の改定で求められている「乳児保育の3つの視点」「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」を意識して、各年齢とも同じ年齢の担当者で検討した。指導計画に基づいて保育を実施する際には、園長、主任、クラス担任全員で評価を行っている。

②個別計画

個別計画については、クラスの指導計画とは別に作成している。指導計画と同様に、今回の改定で求められている「乳児保育の3つの視点」「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」を意識して、各年齢とも同じ年齢の担当者で検討した。個別に「月ごとのカリキュラム」を立てており、項目には、家庭との連携、環境、行事予定、保健・安全、特記事項の欄を設けている。個別の「日誌」には、入園時の子ども様子、食事、排泄、午睡、清潔、運動、対人関係、ことば、まわりへの関心、評価・反省、指導・助言の欄を設けて記録している。それぞれ、園長、主任が評価・検印している。

0歳児は以前から複写式のものを使用し、1枚は日誌としてファイルに綴じ、1枚は連絡帳に挟んで保護者に渡していたが、指針改定後、指針から項目を選んで加えた書式に変更し、各年齢でも同様に変更したものを使用するようになった。日誌に綴じているものを「記録」とすることにしたことで、業務の軽減を図ることにもなった。

③保育帳票記録

指針改定後、北九州市では、北九州市保育帳票検討会が設置され、「保育帳票記入要領」として冊子が作成された。これを基に、園長が職員に研修を行った。

各年齢の保育指導の記録には、新たに示された

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を項目として加えたが、これらは到達目標ではないことを伝え、周知を図った。記入の仕方について押さえるべきところを各項目に記載したことで、記入する際に意識できるよう工夫した。「保育帳票記入要領」に含まれている内容は以下のとおりである。

- ・保育原簿
- ・保健調査票
- ・健康診断票
- ・緊急連絡カード
- ・乳児保育日誌
- ・保育日誌
- ・保育指導の記録（6か月未満児、6か月～1歳3か月未満児、2歳児、3歳児、4歳児、5歳児）
- ・北九州市保育所児童保育要録記載について

2) 研修

当園は、月に1回、全員が集合して園内研修を行い、エピソード研修会やグループワーク、園内公開保育後のビデオカンファレンスなどを行っている。新人の研修には、電話のかけ方や文章の書き方など保育者が身に付けるべき内容についてその都度研修が行われ、ファイルに綴じて学んだことが積み上げていけるようにしている。

指針改定後は、園長が新指針に関する研修に参加して園内研修を行った。その後、担当年齢ごとの研修担当者（分野別リーダー）が中心となって指針の読み合わせを行い、文言の意味の確認や、意味がわかりにくいところについて話し合うなどした。

0歳児クラス担当者は、平成29年度には園内研修を2回実施し、園外研修は4回受講した。平成30年度は園内研修を3回実施、園外研修は4回受講した。1・2歳児クラス担当者は、平成29年度は園内研修を5回実施、平成30年度は3回実施した。

前回の改定では変更点について混乱した部分もあったが、今回の改定では年齢ごとに区切られており、捉えやすかった。

3. 今回のヒアリングで学んだこと

当園では、以前から研修のシステムが整えられており、月に1回、全員が集合して園内研修が行われている。指針改定の際にも園長がリーダーシップをとって職員に研修が行われ、その後、各年齢の研修担当者を中心に勉強会を行い、全職員が新たに改定された指針を理解した上で保育が行えるよう取り組まれていた。

今回の指針改定では、新たに乳児・1歳以上3歳

未満児の保育に関する記載が充実し、特に、乳児保育においては、3つの視点から保育内容が整理されているが、当園では、乳児保育を行う上で以前から大事に捉えていたことが指針に明文化されたこと、1歳以上3歳未満児の保育の5領域についても、子どもを見る視点の窓口として捉え、これまでの記録や保育帳票、保育の内容の見直しが行われていた。特に、指導計画においては、職員間で何度も研修を行い、新たに示された乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児の保育の5領域の内容を反映させて作成されていた。このことは、全職員が共通理解をして保育を行うことにつながっていると考えられる。

また、保育帳票記録については、北九州市の保育帳票検討委員会で検討された保育帳票記入要領を基に、押さえるべき内容を確認しながら記録できるよう工夫されており、記入に洩れがなくなることや、共通した視点で共有することができると思われた。

IV. 総合考察

1. 本研究の意義

本研究には2つの意義がある。その1つは、乳幼児の保育・教育を構想する基盤を得たことである。多くの園で乳児保育の3つの視点や1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容に基づく指導計画が作成され、援助（環境構成を含む）が行われていた。このことは1歳以上3歳未満児の保育や3歳以上児の保育を構想する際に、乳児期や1歳以上3歳未満児の経験に基づく保育を構想する基盤を提供するものである。

このような基盤は、乳児保育と1歳以上3歳未満児の保育で子どもの経験が保障されていることを示唆するものである。多くの子どもは同じ園内で進級するが、中には転園などで環境が大きく変わる子どももいる。経験が保障されていることは、次の園で様々な経験を積み重ねていく上で役立つ。

もう1つの意義は、世界に誇る日本の幼児教育・保育を構築するためのステップを踏めたことである。本研究では、乳児と3歳未満児の保育に関する状況を調べて、指針の変化に「対応できている」園が多いことを示した。この結果は、PDCAの「C」にあたる。今後、厚生労働省や内閣府が乳児保育や1歳以上3歳未満児の保育に関するねらいと内容を更新（「A」）するならば、日本の保育の質をより高いものにするためのステップになる。

2. 今後の課題

本研究の分析対象者の約6割の保育者がキャリアアップ講座を受講していた。しかし、「乳児保育」を受講した者は、その約6割であり、全体で見ると4割を切っていた。

乳児の保育に関する研修についても、29年度も30年度も、園外研修も園内研修も、平均して1回程度しか受けていなかった。標準偏差が大きかったので分布を調べたところ、0歳児クラスの担当者では、29年度の園内研修が0回の者は50%を超えていた。さらに、2年間通算して、園内、園外研修のいずれも一度も受けていなかった者の割合は19.0%、2年間で1回だけ、園内または園外研修を受けた者は、35.7%であった。これらを合計すると、50%以上の者が2年間で0回または1回の研修を受ただけで、ねらいや内容、内容の取扱いが新規に告示された保育を実施していたことになる。

本研究で調査した指導計画や援助の実態は、園全体やクラスのものであり、保育者個人ではない。これに対して講座の受講や研修は個人である。保育者個人の資質・能力を高めることが、保育の質とどのように関係するのかを調べるのが今後の課題である。

引用文献

- 阿部和子 (2002) 乳児保育再考 (4) — 0歳児の保育室の環境について 聖徳大学短期大学部研究紀要 (35) 15-21
- 阿部和子 (2003) 乳児保育再考 (5) — 1・2歳児の保育室の環境について 聖徳大学短期大学部研究紀要 (36) 57-64
- 田中 裕、安梅勅江、酒井初恵、宮崎勝宣、庄司ときえ (2005) 長時間におよぶ乳児保育の子どもの発達への影響に関する5年間追跡研究 日本保健福祉学会誌 12 (1) 23-32
- 村上博文 (2010) 乳児保育室の空間変成と“子ども及び保育者”の変化—K保育所0歳児クラス：自由遊び時間におけるアクションリサーチ 東京大学大学院教育学研究科紀要 49 21-32
- 鈴木方子 (2011) 乳児保育における環境構成について 名古屋女子大学紀要 57 (人・社) 173-184
- 小川博久 (2000) 保育援助論 生活ジャーナル
- 上田七生、山崎晃 (2003) 乳児—保育者間の愛着関係の変容過程 —質的データによる量的データの妥当性の検討 広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部 第52号 333-338

- 初塚眞喜子 (2010) アタッチメント (愛着) 理論から考える保育所保育のあり方 相愛大学人間発達学研究 1 1-16
- 諏訪きぬ、金田利子、土方弘子 (1994) 3歳未満児の「保育の質」をとらえる指標 鳥取大学教育学部研究報告 教育科学 36 (1) 123-146
- 野澤祥子、淀川裕実、高橋翠、遠藤利彦、秋田喜代美 (2017) 乳児保育の質に関する研究の動向と展望 東京大学大学院教育学研究科紀要 56 399-419
- 厚生労働省 (2018) 保育所保育指針解説 フレーベル館
- 文部科学省 (2018) 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2018) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館
- 森口佑介 (2019) 自分をコントロールする力 非認知スキルの心理学 講談社
- 保育者のための自己評価チェックリスト編纂委員会 (2019) 保育者のための自己評価チェックリスト 保育者の専門性の向上と園内研修の充実のために 萌文書林

資料

- 厚生労働省 0歳児の保育内容の記載のイメージ 「保育所保育指針の改定に関する議論のとりまとめ」平成28年12月21日
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000146738.html>
 (アクセス日：2019年11月1日)

謝辞

調査に協力してくださった方々に、厚くお礼申し上げます。

1歳児・2歳児クラス用の調査票の設問12と19にはミスがありました (以下の調査票では該当箇所にアミかけをつけています)。設問12については分析しませんでした。設問19については、回答欄から推測できるので分析しました。記してお詫びいたします。

**保育所保育指針の改定や幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂後に新たに取り入れた
保育内容・実践等に関する調査研究**

以下の設問について、該当するものに○をつけるか、下線部等にご記入ください。

- 貴園の所在地 _____ 都・道・府・県 _____ 市・区・町・村
- 貴園の運営主体は a. 市区町村 b. 社会福祉法人 c. 学校法人 d. 企業 e. その他 (_____)
- 貴園は、保育所ですか、認定こども園ですか。
a. 保育所 b. 幼保連携型認定こども園 c. 認定こども園（保育所型）
d. 認定こども園（幼稚園型） e. 認定こども園（地方裁量型）
- 3で幼保連携型認定こども園と回答された方にお尋ねします。幼保連携型認定こども園になる前についてお答えください。
a. 保育所 b. 幼稚園 c. 新しく創設した d. その他（無認可等）(_____)
- 担当クラスの定員と在籍数、保育者の人数（令和元年5月1日現在）
a. クラスの定員 _____ 名 b. 在籍数 _____ 名 c. 保育者数（有資格者） _____ 名
- あなたは、現行の指針や教育・保育要領に基づいた乳児の保育に関する研修を受けましたか。平成29年度～30年度までに園内・園外で受けた回数をそれぞれお書きください。
1) 平成29年度に、園内で () 回、園外で () 回受けた
2) 平成30年度に、園内で () 回、園外で () 回受けた
- あなたは、現行の指針や教育・保育要領の内容について理解できていますか。
a. 十分理解できている b. だいたい理解できている c. どちらともいえない
d. あまり理解できていない e. 理解できていない
- 現行の指針や教育・保育要領になって貴園の指導計画等は変えましたか。変えたところがあれば、あてはまる項目すべてに○をつけてください。
a. 全体的な計画 b. 年間指導計画 c. 月間指導計画 d. 週案 e. 日案
- クラスの長期指導計画（年・期・月）に乳児保育の3つの視点それぞれのねらい及び内容を含めるために、どのように検討しましたか。
a. 全職員で検討した b. 同じ年齢の担当者と検討した
c. 自身で検討した d. 検討していない
e. 1つ上の年齢の担当者と話し合って指導計画を作成している f. その他 (_____)
- クラスの短期指導計画（週・日）に乳児保育の3つの視点それぞれのねらい及び内容を含めるために、どのように検討しましたか。
a. 全職員で検討した b. 同じ年齢の担当者と検討した
c. 自身で検討した d. 検討していない
e. 1つ上の年齢の担当者と話し合って指導計画を作成している f. その他 (_____)
- あなたのクラスでは、どの程度の個別的な指導計画を作成していますか（特別な支援を必要とする子どもの指導計画とは別に）。
a. クラスの指導計画とは別に一人ずつ個別に指導計画を作成している
b. クラスの指導計画の中に個人の欄（全員分）を設けて作成している
c. クラスの指導計画の中に個人の欄（一部の子ども）を設けて作成している
d. 個別的な指導計画は作成していない
- あなたのクラスでは、乳児保育の3つの視点を意識して個別的な指導計画を作成していますか。
a. している b. だいたいしている c. あまりしていない d. していない
- 個別的な指導計画に乳児保育の3つの視点それぞれのねらい及び内容が含まれているか、どのように確認しましたか。
a. 全職員で会議を開いて確認した b. 同じ年齢の担当者と確認した
c. 自身で確認した d. 確認していない
e. その他 (_____)
- あなたのクラスでは、乳児保育の3つの視点を意識した援助をしていますか。
a. している b. だいたいしている c. どちらともいえない
d. あまりしていない e. していない
- あなたの園では、カンファレンス（会議・協議）をどの程度開いていますか。
a. 定期的に行っている b. 必要に応じて開いている
c. 開いていない d. その他 (_____)
- あなたのクラスでは、指導計画に基づき保育・教育を実施する際、評価をどのような体制で行っていますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。
a. 園長が評価を行っている b. 主任が評価を行っている
c. クラスリーダーが評価を行っている d. クラス全員で評価を行っている
e. 体制は整っていない f. その他 (_____)

17. あなたの園では、日々の引き継ぎの体制をどのように設けていますか。
 a. 時間を設けて引き継いでいる
 b. 他の職員に伝言している
 c. 引き継ぎ用のノートで連絡している
 d. ICTを活用している
 e. 特にしていない
 f. その他 ()
- 18 あなたの園では、PDCAサイクルのC（評価）をどのような体制で行っていますか。
 a. 全職員で評価を行っている
 b. 同じ年齢の担当で評価を行っている
 c. 他の年齢の担当で評価を行っている
 d. 外部の評価者が行っている
 e. 体制は整っていない
 f. その他 ()
19. 現行の指針や教育・保育要領で示された「乳児保育に関する3つの視点」について、指導計画の作成、及び援助（環境構成を含む）の実施状況をお尋ねします。各視点の①～⑩の項目について、それぞれabcの中から1つを選んで○を記入してください。

身体的発達に関する視点 「健やかに伸び伸びと育つ」	指導計画			援助（環境構成を含む）		
	以前から指導計画に入っていた	新たに指導計画に加えた	指導計画に記載していない	以前から実施していた	新たに実施するようになった	実施していない
①心と体の発達の促し	a	b	c	a	b	c
②体を動かす機会の確保	a	b	c	a	b	c
③自ら体を動かそうとする意欲の育成	a	b	c	a	b	c
④生理的・心理的欲求の受け止め	a	b	c	a	b	c
⑤一人一人の発育に応じた経験の助長	a	b	c	a	b	c
⑥個人差に応じた授乳	a	b	c	a	b	c
⑦ゆったりとした授乳	a	b	c	a	b	c
⑧体調に対応した離乳食	a	b	c	a	b	c
⑨生活リズムに応じた睡眠の環境	a	b	c	a	b	c
⑩適切なおむつ交換	a	b	c	a	b	c

社会的発達に関する視点 「身近な人と気持ちが通じ合う」	指導計画			援助（環境構成を含む）		
	以前から指導計画に入っていた	新たに指導計画に加えた	指導計画に記載していない	以前から実施していた	新たに実施するようになった	実施していない
①一人一人とのスキンシップ	a	b	c	a	b	c
②甘えなどの依存欲求の充足	a	b	c	a	b	c
③人に触れられて心地よいと感じるような関わり	a	b	c	a	b	c
④表情などからの気持ちの受け止め	a	b	c	a	b	c
⑤発声、喃語などへのゆったりとやさしい応答	a	b	c	a	b	c
⑥積極的な言葉のやりとり	a	b	c	a	b	c
⑦一緒にいることを喜ぶような声かけ	a	b	c	a	b	c
⑧一人一人へのやさしい対応	a	b	c	a	b	c
⑨親しみの気持ちを表せる工夫	a	b	c	a	b	c
⑩気持ちを理解した受け止め	a	b	c	a	b	c

精神的発達に関する視点 「身近なものに関わり感性が育つ」	指導計画			援助（環境構成を含む）		
	以前から指導計画に入っていた	新たに指導計画に加えた	指導計画に記載していない	以前から実施していた	新たに実施するようになった	実施していない
①興味や関心をもてるような環境構成	a	b	c	a	b	c
②音、形、色、手触りなどを考慮した玩具の用意	a	b	c	a	b	c
③感覚の発達を促すような玩具の用意	a	b	c	a	b	c
④探索意欲を満たす活動	a	b	c	a	b	c
⑤表現しようとする意欲の受け止め	a	b	c	a	b	c
⑥発達に即した絵本の用意	a	b	c	a	b	c
⑦様々な色彩や形のものを見る機会	a	b	c	a	b	c
⑧あやし遊び	a	b	c	a	b	c
⑨リズムを伴った触れ合い遊び	a	b	c	a	b	c
⑩身の回りのものの十分な安全点検	a	b	c	a	b	c

20. あなたは保育士等キャリアアップ講座を受講しましたか。どちらかを選んでください。 はい ・ いいえ
21. 20で「はい」と回答された方は、受講した講座すべてに○をつけてください。
 a. 乳児保育
 b. 幼児教育
 c. 障害児保育
 d. 食育・アレルギー対応
 e. 保健衛生・安全対策
 f. 保護者支援・子育て支援
 g. マネジメント
 h. 保育実践
22. 現行の指針や教育・保育要領に改定(訂)されてから、あなたのクラスの保育で新たに取り入れた保育内容・実践(教材などを含む)があればお書きください。

ご協力いただき、ありがとうございました

**保育所保育指針の改定や幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂後に新たに取り入れた
保育内容・実践等に関する調査研究**

以下の設問について、該当するものに○をつけるか、下線部等にご記入ください。

1. 貴園の所在地 _____ 都・道・府・県 _____ 市・区・町・村
2. 貴園の運営主体は a. 市区町村 b. 社会福祉法人 c. 学校法人 d. 企業 e. その他 (_____)
3. 貴園は、保育所ですか、認定こども園ですか。
a. 保育所 b. 幼保連携型認定こども園 c. 認定こども園（保育所型）
d. 認定こども園（幼稚園型） e. 認定こども園（地方裁量型）
4. 3で幼保連携型認定こども園と回答された方にお尋ねします。幼保連携型認定こども園になる前についてお答えください。
a. 保育所 b. 幼稚園 c. 新しく創設した d. その他（無認可等）(_____)
5. 担当クラスの定員と在籍数、保育者の人数（令和元年5月1日現在）
a. クラスの定員 _____ 名 b. 在籍数 _____ 名 c. 保育者数（有資格者） _____ 名
6. あなたは、現行の指針や教育・保育要領に基づいた1歳～3歳未満児の保育に関する研修を受けましたか。平成29年度～30年度までに園内・園外で受けた回数をそれぞれお書きください。
1) 平成29年度に、園内で () 回、園外で () 回受けた
2) 平成30年度に、園内で () 回、園外で () 回受けた
7. あなたは、現行の指針や教育・保育要領の内容について理解できていますか。
a. 十分理解できている b. だいたい理解できている c. どちらともいえない
d. あまり理解できていない e. 理解できていない
8. 現行の指針や教育・保育要領になって貴園の指導計画等は変えましたか。変えたところがあれば、あてはまる項目すべてに○をつけてください。
a. 全体的な計画 b. 年間指導計画 c. 月間指導計画 d. 週案 e. 日案
9. クラスの長期指導計画（年・期・月）に「1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容」を含めるために、どのように検討しましたか。
a. 全職員で検討した b. 同じ年齢の担当者と検討した
c. 自身で検討した d. 検討していない
e. 1つ上の年齢の担当者と話し合って指導計画を作成している f. その他 (_____)
10. クラスの短期指導計画（週・日）に「1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容」を含めるために、どのように検討しましたか。
a. 全職員で検討した b. 同じ年齢の担当者と検討した
c. 自身で検討した d. 検討していない
e. 1つ上の年齢の担当者と話し合って指導計画を作成している f. その他 (_____)
11. あなたのクラスでは、どの程度の個別的な指導計画を作成していますか（特別な支援を必要とする子どもの指導計画とは別に）。
a. クラスの指導計画とは別に一人ずつ個別に指導計画を作成している
b. クラスの指導計画の中に個人の欄（全員分）を設けて作成している
c. クラスの指導計画の中に個人の欄（一部の子ども）を設けて作成している
d. 個別的な指導計画は作成していない
12. あなたのクラスでは、乳児保育の3つの視点を意識して個別的な指導計画を作成していますか。
a. している b. だいたいしている c. あまりしていない d. していない
13. 個別的な指導計画に「1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容」が含まれているか、どのように確認しましたか。
a. 全職員で会議を開いて確認した b. 同じ年齢の担当者と確認した
c. 自身で確認した d. 確認していない
e. その他 (_____)

14. あなたのクラスでは、「1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容」を意識した援助をしていますか。
 a. している b. だいたいしている c. どちらともいえない
 d. あまりしていない e. していない
15. あなたの園では、カンファレンス（会議・協議）をどの程度開いていますか。
 a. 定期的に行っている b. 必要に応じて開いている
 c. 開いていない d. その他（ ）
16. あなたのクラスでは、指導計画に基づき保育・教育を実施する際、評価をどのような体制で行っていますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。
 a. 園長が評価を行っている b. 主任が評価を行っている
 c. クラスリーダーが評価を行っている d. クラス全員で評価を行っている
 e. 体制は整っていない f. その他（ ）
17. あなたの園では、日々の引き継ぎの体制をどのように設けていますか。
 a. 時間を設けて引き継いでいる b. 他の職員に伝言している
 c. 引き継ぎ用のノートで連絡している d. ICTを活用している
 e. 特にしていない f. その他（ ）
18. あなたの園では、PDCAサイクルのC（評価）をどのような体制で行っていますか。
 a. 全職員で評価を行っている b. 同じ年齢の担当で評価を行っている
 c. 他の年齢の担当が評価を行っている d. 外部の評価者が行っている
 e. 体制は整っていない f. その他（ ）
19. 現行の指針や教育・保育要領で示された「乳児保育の3つの視点」について、指導計画の作成、及び援助（環境構成を含む）の実施状況をお尋ねします。各視点の①～⑩の項目について、それぞれa b cの中から1つを選んで○を記入してください。

「健康」	指導計画			援助（環境構成を含む）		
	以前から指導計画に入っていた	新たに指導計画に加えた	指導計画に記載していない	以前から実施していた	新たに実施するようになった	実施していない
①安定感をもって生活できるよう受容	a	b	c	a	b	c
②生活リズムの形成	a	b	c	a	b	c
③走る、跳ぶ、登る、押す、ひっぱるなど全身を使う遊び	a	b	c	a	b	c
④清潔に保つ心地よさの習慣の獲得	a	b	c	a	b	c
⑤ゆったりとした排泄を促す環境	a	b	c	a	b	c
⑥身体を動かそうとする意欲の育成	a	b	c	a	b	c
⑦食べる喜びや楽しさを味わえる雰囲気	a	b	c	a	b	c
⑧個人差に応じて排泄に少しずつ慣れさせる対応	a	b	c	a	b	c
⑨食事、排泄、睡眠、衣服の着脱、身の周りの清潔など、自分でしようとする気持ちの尊重	a	b	c	a	b	c
⑩基本的な生活習慣の形成についての家庭との連携	a	b	c	a	b	c

「人間関係」	指導計画			援助（環境構成を含む）		
	以前から指導計画に入っていた	新たに指導計画に加えた	指導計画に記載していない	以前から実施していた	新たに実施するようになった	実施していない
①人と共に過ごす心地よさを感じられるような、思いの受け入れ	a	b	c	a	b	c
②他の子どもとの多様な関わり	a	b	c	a	b	c
③自らきまりの大切さに気付く援助	a	b	c	a	b	c
④他の年齢の子どもの存在を感じ楽しめるような援助	a	b	c	a	b	c
⑤気持ちを尊重し、温かく愛情豊かで応答的な関わり	a	b	c	a	b	c
⑥思い通りにいかないときなどの子どもの気持ちの受け止め	a	b	c	a	b	c
⑦不安な気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることの大切さに気付く援助	a	b	c	a	b	c
⑧様々な人がいることへの気付きを促す援助	a	b	c	a	b	c
⑨自分の気持ちを相手に伝えることの大切さを知らせる関わり	a	b	c	a	b	c
⑩相手の気持ちに気付くことの大切さを知らせる関わり	a	b	c	a	b	c

「環 境」	指 導 計 画			援 助（環境構成を含む）		
	以前から指導計画に入っていた	新たに指導計画に加えた	指導計画に記載していない	以前から実施していた	新たに実施するようになった	実施していない
①見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにし、探索活動を促す環境構成	a	b	c	a	b	c
②玩具、絵本、遊具などを使った遊びを楽しむことのできる環境構成	a	b	c	a	b	c
③物の性質や仕組みに気付くことのできる環境構成	a	b	c	a	b	c
④自分の物と人の物の区別や場地的感覚など、環境を捉える感覚の育成	a	b	c	a	b	c
⑤身近な生き物に気付き、親しみをもつことのできる環境構成	a	b	c	a	b	c
⑥地域の生活に対する興味や関心	a	b	c	a	b	c
⑦感覚の発達が促されるような、音質、形、色、大きさなど、子どもの発達に応じた適切な玩具の選定	a	b	c	a	b	c
⑧発見を楽しんだり、考えたりすることができるような援助	a	b	c	a	b	c
⑨生命の尊さに対する気付きを促す関わり	a	b	c	a	b	c
⑩社会とのつながりや地域社会の文化に気付く関わり	a	b	c	a	b	c

「言 葉」	指 導 計 画			援 助（環境構成を含む）		
	以前から指導計画に入っていた	新たに指導計画に加えた	指導計画に記載していない	以前から実施していた	新たに実施するようになった	実施していない
①自分で言葉を使おうとしたときのありのままの受け止め	a	b	c	a	b	c
②生活に必要な言葉に対する気付きを促す関わり	a	b	c	a	b	c
③心のこもった日常の挨拶	a	b	c	a	b	c
④人の言葉や話を興味をもって聞く機会の提供	a	b	c	a	b	c
⑤言葉のやりとりを楽しめるような関わり	a	b	c	a	b	c
⑥状況を説明する言葉などを補う援助	a	b	c	a	b	c
⑦思いを察し、共感した受け止め	a	b	c	a	b	c
⑧言葉の習得段階に応じた援助	a	b	c	a	b	c
⑨絵本や物語など、子どもの発達や興味・関心に即したものの提供	a	b	c	a	b	c
⑩言葉のやり取りができるような援助	a	b	c	a	b	c

「表 現」	指 導 計 画			援 助（環境構成を含む）		
	以前から指導計画に入っていた	新たに指導計画に加えた	指導計画に記載していない	以前から実施していた	新たに実施するようになった	実施していない
①歌や簡単な手遊びに慣れ親しむような関わり	a	b	c	a	b	c
②自分なりにイメージを広げて表現することができる援助	a	b	c	a	b	c
③様々な素材に触れる環境整備	a	b	c	a	b	c
④身体の動きを表現できる環境整備	a	b	c	a	b	c
⑤様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり感じたりできるような環境構成	a	b	c	a	b	c
⑥イメージや感性を豊かにする経験ができるような工夫	a	b	c	a	b	c
⑦試行錯誤しながら様々な表現を楽しむための温かい見守り	a	b	c	a	b	c
⑧自分の力でやり遂げる充実感に気付くことができる援助	a	b	c	a	b	c
⑨自信をもって表現できるような関わり	a	b	c	a	b	c
⑩発見や心が動く経験ができるような環境整備	a	b	c	a	b	c

20. あなたは保育士等キャリアアップ講座を受講しましたか。どちらかを選んでください。 はい ・ いいえ

21. 20で「はい」と回答された方は、受講した講座すべてに○をつけてください。

- a. 乳児保育 b. 幼児教育 c. 障害児保育 d. 食育・アレルギー対応
e. 保健衛生・安全対策 f. 保護者支援・子育て支援 g. マネジメント h. 保育実践

22. 現行の指針や教育・保育要領に改定(訂)されてから、あなたのクラスの保育で新たに取り入れた保育内容・実践(教材などを含む)があればお書きください。

ご協力いただき、ありがとうございました